

大学評価 機構ニュース

学位授与 *National Institution for Academic Degrees*

第 27 号

平成 14 年 5 月発行



学位記授与式 (H14. 2. 27)

目 次

◆巻頭言			
■評議員会会長	井村 裕夫	……2	
■大学評価委員会委員長	阿部 謹也	……3	
◆大学評価事業の状況			
■平成12年度着手の大学評価事業			
○平成12年度着手の大学評価の評価結果について		……4	
■平成14年度に着手する大学評価事業			
○平成14年度に着手する大学評価実施基本計画について		……4	
◆学位授与事業の状況			
■短期大学・高等専門学校卒業者、専門学校修了者等に対する学士の学位授与関係			
○1,598人に学士の学位を授与			
ー平成13年度10月期申請分ー		……9	
■認定課程(各省庁大学校)修了者に対する学位授与関係			
○19人に博士の学位を授与			
ー大学院博士課程相当の課程修了者ー		……10	
○837人に学士の学位を授与			
ー学部相当の課程修了者ー		……10	
■認定専攻科関係			
○新たに19専攻を認定 ー平成14年度ー		……10	
○認定専攻科の教育の実施状況等の審査		……11	
○「商船学」の単位修得の専攻基準を制定		……12	
■これまでの学位授与・専攻科認定等の状況等			
○学位授与の状況		……13	
○各省庁大学校の課程の認定状況		……14	
○短期大学及び高等専門学校専攻科の認定状況		……15	
■平成14年度学位授与関係			
○平成14年度学士の学位授与申請受付期間及び試験日程		……16	
○学士の学位授与制度及び申請方法等関連の刊行物		……16	
○平成14年度学位授与関係審査スケジュール		……17	
■機構ホームページにおけるFAQの公開について		……18	
■10周年記念誌を機構ホームページに掲載		……18	
■見込申請者に対する学修成果・試験の審査結果の通知について		……18	
◆機構の窓			
○会議の開催状況		……19	
○OECDコンサルタント、機構を訪問		……21	
○モンゴル教育科学技術文化省副大臣、機構を訪問		……21	
○機構新施設の整備の概要		……22	
○研究紀要「学位研究」第16号の発行		……22	
○海外渡航一覧		……23	
○規程及び規則等の改正等		……23	
○委員の異動		……24	
○人事異動		……25	
◆就任挨拶			
○評価研究部助教授	袖山 禎之	……27	
○評価研究部助教授	井田 正明	……28	
◆退任・転任挨拶			
○前学位審査研究部部長・教授	齋藤 安俊	……29	
○前学位審査研究部助教授	橋本 鉦市	……30	
○前副機構長	齊藤 秀昭	……31	
◆海外渡航余話			
○前学位審査研究部助教授	橋本 鉦市	……32	
◆教職員一覧等			
○教職員一覧		……33	
○電話番号一覧		……35	

“評価の時代”の幕開けを迎えて

大学評価・学位授与機構評議員会会長

井 村 裕 夫



大学評価・学位授与機構が、平成12年度に着手された大学評価の結果をこの度公表された。その内容については様々な意見や批判もあるものと思われる。しかし、わが国にも漸く“評価の時代”が来たことを示すものとして、この評価報告書の

意義は大きい。多くの困難を乗り越えて、報告書を完成させた関係各位の御努力に敬意を表したい。

評価は人間社会にとって欠くことのできないもので、それなくして適材を適所に配置することも、組織を円滑に動かすこともできない。しかし、従来評価は評価者が多分に主観に基づいてひそかに行ってきたもので、それが明確な形で公表されることはなかった。そのような評価が公けの場で行われるようになったのは、論文の発表や研究費の配分に専門家によるピア・レビュー制度が導入されてからのことではなからうか。とくに高等教育や研究に多額の公的資金が投入されるようになって、評価は説明責任を果たす一つの手段として広く用いられるようになった。

しかし現在でも、果たして人が他の人や組織を適確に評価できるか否かについては、根強い反対意見が存在する。とくに結果の平等を重んじ、物事を明晰に表現することを避けてきたわが国においては、公開の形で評価を行い、それを資源配分に活用していこうとする動きには大変な抵抗があるのが現状であろう。大学評価・学位授与機構が直面してきた困難も、まさにこのような抵抗であったと考えられる。

たしかに教育・研究の評価は、容易な仕事ではない。応用研究の評価にはあまり困難はないであろう。基礎研究も多くの場合、それほど難しくない。しかし、ブレークスルーをもたらすような萌芽的研究の評価は大変難しい課題である。また極めて息の長い観察や考察の必要な領域では、短期間での評価は結果を誤るおそれがある。教育の評価は更に難しい。知識を伝授する型の教育はいくつかの指標で可能であろうが、学生に考えさせる教育は評価が困難である。さらに大学の伝統や学風と呼ばれる、いわば暗

黙知の伝承は、学部教育の中で無視できない重要な要素であるが、その適確な評価は一層難しい。

しかし、それにも拘わらず評価はなされねばならないし、またかなりの確度で可能になるものと私は考えている。高等教育も研究も益々拡がりつつあり、高額な費用を必要とする現在、国家にとって効率の良い投資を行うことは何よりも大切であり、そのためには評価が不可欠となる。適確な評価は単に投資の効果をよくするというやや消極的な意義だけでなく、教育・研究を活性化する役割を果たすものと考えられる。アメリカやイギリスの教育・研究が進んでいるのにはいくつかの要因があるが、厳格で確度の高い評価が大きい要因であることは、多くの人々が認めているところである。

とは言え、欧米よりかなり遅れて“評価の時代”を迎えたわが国にとって残された課題も多い。最大の問題は、評価者の評価の目を、いかに確かで公正なものに育てて行くかということである。良い評価者なくして良い評価はあり得ない。評価者の育成こそ、現在のわが国にとって何よりも重要な課題である。第二に評価の視点を整理することである。大学にも個人にも優等生になることを求めてはならない。評価を客観的にしようとすると、ややもすれば多くの項目について評価しがちである。個性をいかに尊重し、評価するかが問題であろう。第三に、評価は人間がするものであるから完全ではあり得ない。そのためには複数の評価機関ないしは評価法の存在が望まれる。これを機会に大学は思い切った情報公開を行い、様々な形の評価に資料を提供すべきであろう。

わが国も漸く評価の時代を迎えた。この評価が、今後とも様々な批判に耐えて、より良いものに育って行くことを期待したい。

いむら・ひろお 昭和6年生 医学博士
京都大学名誉教授、総合科学技術会議議員
京都大学長、国立大学協会会長、大学設置・学校法人審議会委員等を歴任、平成11年5月から大学評価機関（仮称）創設準備委員会委員長（平成12年3月まで）、現在、大学評価・学位授与機構評議員会会長、日本学士院会員。著書に「生命のメッセンジャーに魅せられた人びと」他専門書多数。

第1回大学評価を終えて

大学評価・学位授与機構大学評価委員会委員長

阿 部 謹 也



大学評価・学位授与機構においては平成12年以来鋭意進めてきた大学評価事業を今年の3月にひとまず終了し、評価報告書を公表した。全学テーマ別評価〔教育サービス面における社会貢献〕

112機関、分野別教育評価〔理学系および医学系〕25組織、分野別研究評価〔理学系および医学系〕12組織計149の機関および組織である。評価にかかわった評価員はのべ250名であった。わが国始まって以来の大規模な大学評価事業であり、評価にかかわった評価員だけでなく、評価の対象となった各大学や研究機関には多大なご協力をいただいた。ここに関係者全てに心から御礼を申しあげたい。

今回の大学評価事業はわが国の高等教育の歴史の中で初めての試みであり、評価する側もされる側も戸惑うことが多かった。今回の評価事業はその意味で試行の段階であり、今後回を重ねる中で少しでも満足が行くものにしてゆきたいと考えている。大学評価委員会では終了後に今回の評価事業について専門委員会や評価員から実施体制や実施方法について意見を集めたところ、次のような意見があった。

評価員自身が不慣れなため、全員が共通の理解のもとで評価を行ううえで困難があった、という指摘は基本的には研修が不十分であったということになる。さらに評価の前提として各機関の自己評価書を基にして評価をおこなうという原則があったために、評価が自己評価書の記述に左右されがちだという指摘もあった。また作業の時間に制約があり、作業の負担も大きいという意見があった。これらの点は今後の評価に当たって考慮すべき事柄である。特に評価の対象となった大学や機関の負担をできるだけ軽くするにはどうすべきかが今後の検討課題となる。

今後評価結果が公表されるとさまざまな反響が生ずるであろう。その際に今回の評価事業が各大学や

研究機関の自己評価を前提として行われているという点について広く周知徹底する必要があるだろう。各大学や研究機関が自ら立てた目標の達成に研究面でも教育面でもどれほど努力しているかが明らかになることが重要なのである。各大学の自助努力に協力するための評価なのである。そのために誤解が生ずる危険性もある。例えば教育サービス面での社会貢献の評価で〔取り組みは目的および目標の達成に充分貢献している〕が41パーセントあり、〔取り組みは目的および目標の達成におおむね貢献しているが、改善の余地がある〕が59パーセントとなっている。この数字から各大学の社会貢献が充分だということにはならない。個々の大学や研究機関が立てた目標が国民の目からみて適切かどうかという問題があるからである。

すでに述べたように今回の評価事業は初めての経験であり、至らぬ点が多かったと思われる。大学評価・学位授与機構の職員も大変な努力を傾けられた。わが国ではいまだ個人が確立しているとは言いがたい状況である。各省庁の不祥事などを見ても明らかのように、集団としての利害が個人よりも優先されているわが国の現状の中で客観的な評価を行うということはそれ自体極めて困難なことなのである。しかし私達はまず第一歩を踏み出すことができた。この一歩についてはさまざまな批判があるだろう。しかしわが国で最初の試みとして多くの批判に耳を傾けながら、客観的な評価事業を根づかせなければならない。

各方面のご協力を切にお願いしたい。

あべ・きんや 昭和10年生

一橋大学名誉教授

一橋大学長、大学審議会特別委員、財団法人大学基準協会副会長、文化功労者審査会委員、学術審議会委員、国立大学協会会長を歴任。現在、共立女子学園顧問。著書に「中世を旅する人びとーヨーロッパ庶民生活点描ー」「中世の窓から」「＜世間＞とは何か」「大学論」など多数。

専門：西洋社会史

平成12年度着手の大学評価事業

また、当機構のウェブサイトにも、評価結果の全般的な状況や評価実施上の課題などを記載した「平成12年度着手の大学評価の評価結果について」も掲載

平成14年度に着手する大学評価事業

なお、基本計画については、当機構のウェブサイト (<http://www.niad.ac.jp/>) にも掲載中です。

平成14年 3月20日
大学評価・学位授与機構
大学評価委員会

1 評価の目的

評価結果を大学等（大学及び大学共同利用機関をいう。以下同じ。）にフィードバックし、各大学等の教育研究活動の改善に役立てるとともに、大学等の諸活動の状況や成果を社会に分かりやすく示すことにより、公共的な機関としての大学等に対する国民の理解と支持が得られるよう支援・促進する。

2 評価の区分

(1) 全学テーマ別評価

大学等における教育研究活動等について、全学的な課題をテーマとして設定し、各大学等を単位として評価する。

(2) 分野別教育評価

大学における教育活動等について、学問分野ごとに学部、研究科を単位として評価する。

(3) 分野別研究評価

大学等における研究活動等について、学問分野ごとに学部及び研究科、大学附属研究所、その他の研究組織、大学共同利用機関を単位として評価する。

3 対象機関

(1) 国立大学及び大学共同利用機関並びに公立大学を対象とする。

(2) 対象機関数は、段階的实施期間中（平成12～14年度着手分）であることから、全学テーマ別評価の公立大学分及び分野別評価については、その数を絞って実施する。

(3) 評価は、対象機関のうち設置者から要請のあった機関について実施する。

4 実施計画

(1) 全学テーマ別評価

実施テーマ	対象機関数（注1）
国際的な連携及び交流活動（仮称）（注2）	国立大学（99大学） 全大学共同利用機関（15機関） 公立大学（10大学）

（注1）対象機関数については、機構が行う評価の実施可能な機関数を示している。

（注2）実施テーマの趣旨等は「全学テーマ別評価のテーマ概要」のとおりである。

(2) 分野別評価

段階的实施期間中に、大学評価機関（仮称）創設準備委員会報告書の大学評価委員会等の構成（案）で示された9分野を実施することとし、平成14年度着手分は平成12年度及び13年度着手分の医学系・理学系・法学系・工学系教育学系を除いた4分野とする。

評価区分	実施分野	対象機関数（注1）
分野別教育評価	人文系系 経済系系 農学系	国立大学のうち 対象分野ごとに6大学 公立大学のうち 対象分野ごとに3大学
	総合科学（注2）	国立大学のうち 4大学 公立大学のうち 2大学
分野別研究評価	人文系系 経済系系 農学系	国立大学、大学共同利用機関のうち 対象分野ごとに6組織 公立大学のうち 対象分野ごとに3組織
	総合科学（注2）	国立大学のうち 4組織 公立大学のうち 2組織

（注1）対象機関数については、機構が行う評価の実施可能な機関数を示している。

（注2）総合科学については、分野別教育・研究評価の対象を同一の機関とする。

5 実施方法等

(1) 実施体制

評価を実施するに当たっては、大学評価委員会に、テーマ別及び分野別の専門委員会を設置する。専門委員会の下に、必要に応じて、当該テーマ及び分野の専門家等を評価員として置き、評価に当たっては、専門委員会の委員及び評価員による評価チームを構成する。また、分野別研究評価においては、評価チームのほかに分野ごとに個別の研究活動を判定するために各専門領域ごとに専門委員会の委員及び評価員で構成する部会を設置する。

なお、テーマ別及び分野別の専門委員会の構成は、6頁のとおりである。

(2) 実施方法

機構の示す要項に基づき各大学等から提出された自己評価書（根拠となるデータ等含む。）及び機構が独自に調査・収集する資料等に基づき、原則として下記記載の書面調査及び訪問調査又はヒアリングによる分析・調査を踏まえて評価を行う。

評価区分	実施方法
全学テーマ別評価	書面調査及びヒアリング
分野別教育評価	書面調査及び訪問調査
分野別研究評価	書面調査及びヒアリング

6 評価結果

(1) 評価結果は、評価区分ごとに、各評価項目ごとの評価を記述により示すことを基本とする。

(2) 評価結果を確定する前に、その内容について、大学等に意見の申立の機会を設ける。

(3) 評価結果は、各大学等及びその設置者に通知するとともに公表する。

7 スケジュール

平成14年度着手評価事業のスケジュールは、8頁のとおりである。

全学テーマ別評価のテーマ概要

「国際的な連携及び交流活動（仮称）」
【平成14年度着手分】

1 テーマの趣旨

今後の21世紀の世界は、社会、経済、文化の地球規模での交流がますます進展し、国際的な協調、共生関係が増大する一方で、国際的な競争も激化する時代になると予測されています。このような趨勢の中で、大学及び大学共同利用機関（以下「大学等」という。）に対しても、国際的な通用性や共通性を高めつつ、より一層世界に開かれた機関となることが期待されています。

とりわけ、国際的連携・交流活動は、研究面では学術研究が本質的に国際的性格を有するものであり、その水準向上を図っていく上で研究者同士の知的刺激の授受が不可欠なものであることから、その積極的推進が求められています。また、教育面では、学生の相互交流による異文化理解と友好の増進や、人材育成を通じた知的国際貢献の促進などの観点から、一層の取組が求められているほか、様々な国際連携・交流の活動が行われてきています。

本テーマにおいては、これらの状況を踏まえ各大学等で行われている様々な活動のうち、全学的（全機関的）組織で行われている活動及び全学的（全機関的）な方針の下に部局等において組織的に行われている活動を対象とし、各大学等が設定した本テーマに関する目的及び目標に即して、それを実現するための取組状況や改善のための取組等について評価を実施します。

2 対象となる活動の例

本テーマの評価の対象となる活動として、以下のような例が考えられます。これらは一般的に考えられる活動の例示であり、すべての対象となる活動を表しているものではなく、すべてが対象として取り上げられる活動でもありません。

＜研究面における連携及び交流活動＞
『国際交流協定の締結』、『国際共同研究の実施』、『外国人研究者等の受入』、『教員の海外派遣』
＜教育面における連携及び交流活動＞
『国際交流協定の締結』、『留学生の受入』、『教員の人事交流』、『学生の海外派遣』、『インターネットを利用した国際授業交換』、『日本学術振興会・JICA等への協力』
＜その他の活動＞
『国際会議・国際シンポジウムの開催、参加』、『大学独自の国際交流基金の設置』、『地域との連携による国際交流事業の実施、参加』

3 対象機関

国立大学（短期大学を除く99大学）及び全大学共同利用機関（15機関）
公立大学（10大学）

専門委員会の構成（平成14年度着手分）

1 全学テーマ別評価「国際的な連携及び交流活動に関する専門委員会構成

区 分	人 数
大学関係者	16人
学識経験者	10人
計	26人

注1 全学テーマ別評価については、評価員を加えて評価を行う。

2 「大学関係者」は、当該テーマに関し豊富な経験と専門的知識を有する者、大学等の教育研究活動及び大学運営に関し豊富な経験と高い識見を有する者及び大学評価に関し豊富な経験と専門的知識を有する者を示す。

3 「学識経験者」は、教育學術に広くかつ高い識見を有する大学関係者以外の者を示す。

2 人文学系教育評価専門委員会構成

区 分	領 域	人 数
当該分野の専門家	哲学・倫理学 中国哲学 印度哲学・仏教学 宗教学 思想史 美学・芸術学・美術史	4人
	日本文学 ヨーロッパ語系文学 各国文学・文学論	4人
	言語学 日本語学（日本語教育） 英語学（外国語教育）	2人
	史学一般 日本史 東洋史 西洋史	4人
	人文地理学系	2人
	考古学・文化人類学系	2人
	社会学系	4人
	心理学系 社会・環境系心理学 人格・臨床系心理学 発達・教育系心理学 実験系心理学	4人
	学 識 経 験 者	4人
	計	30人

注1 人文学系教育評価については、必要に応じ、評価員を追加して評価を行う。

2 「学識経験者」は、当該分野に関し高い識見を有する者を示す。

3 領域欄に示した各領域は、限定的なものではない。

3 経済学系教育評価専門委員会構成

区 分	領 域	人 数
当該分野の専門家	理論経済学 経済学説・経済思想 経済統計学 応用経済学 経済政策 財政学・金融論 経済史	21人
	経営学 商学 会計学	9人
学 識 経 験 者		3人
計		33人

（注）1 経済学系教育評価については、必要に応じ、評価員を追加して評価を行う。

2 「学識経験者」は、当該分野に関し高い識見を有する者を示す。

3 領域欄に示した各領域は、限定的なものではない。

4 農学系教育評価専門委員会構成

区 分		人 数
当該分野の専門家	森林科学系	3
	生物生産系	4
	生命化学系	4
	社会経済系	3
	水圏生産系	3
	地域環境系	3
	獣医学系	3
学 識 経 験 者		3
計		26

（注）1 農学系教育評価については、必要に応じ、評価員を追加して評価を行う。

2 「学識経験者」は、当該分野に関し高い識見を有する者を示す。

5 人文学系研究評価専門委員会構成

区 分		領 域	人 数
当該分野の専門家	哲学・思想系	哲学・倫理学 中国哲学 印度哲学・仏教学 宗教学 思想史 美学・芸術学・美術史	4人
	文学系	日本文学 ヨーロッパ語系文学 各国文学・文学論	4人
	言語学系	言語学 日本語学（日本語教育） 英語学（外国語教育）	2人
	史学系	史学一般 日本史 東洋史 西洋史	4人
	人文地理学系	人文地理学	2人
	考古学・文化人類学系	考古学 文化人類学・民俗学	2人
	社会学系	社会学	4人
	心理学系	社会・環境系心理学 人格・臨床系心理学 発達・教育系心理学 実験系心理学	4人
	学 識 経 験 者		4人
計			30人

- 注1 人文学系研究評価については、区分ごとに部会を設置する。各部会は、専門委員会の委員に評価員を加えて構成し、ピア・レビューによる研究水準の評価を行う。
- 2 「学識経験者」は、当該分野に関し高い識見を有する者を示す。
- 3 領域欄に示した各領域は、限定的なものではない。

6 経済学系研究評価専門委員会構成

区 分		領 域	人 数
当該分野の専門家	経済学	理論経済学 経済学説・経済思想 経済統計学 応用経済学 経済政策 財政学・金融論 経済史	21人
		経営学 商学 会計学	9人
	学 識 経 験 者		3人
	計		33人

- (注)1 経済学系研究評価においては、区分ごとに部会を設置する。各部会は、専門委員会の委員に評価員を加えて構成し、ピア・レビューによる研究水準の評価を行う。
- 2 「学識経験者」は、当該分野に関し高い識見を有する者を示す。
- 3 領域欄に示した各領域は、限定的なものではない。
- 4 複数の区分にまたがる学際領域については、関係する複数の部会において協議し対応する。

7 農学系研究評価専門委員会構成

区 分		領 域	人 数
当該分野の専門家	農学	育種学 作物学 園芸・造園学 植物保護 養蚕・昆虫利用学	3人
		植物栄養学・土壌学 応用微生物学・応用生物化学 生物生産科学・生物有機化学 食品化学・栄養化学	3～4人
		林学、林産学	2～3人
		水産学	2人
		農業経済学	2人
	農業工学	農業土木学・農村計画学 農業機械学 生物環境	3人
		畜産学・獣医学 畜産学・草地学 応用動物科学 基礎獣医学・基礎畜産学 応用獣医学	3人
	境界農学	生物資源科学 応用分子細胞生物学	2人
		学 識 経 験 者	3人
	計		23～25人

- (注)1 農学系研究評価においては、区分ごとに部会を設置する。各部会は、専門委員会の委員に評価員を加えて構成し、ピア・レビューによる研究水準の評価を行う。
- 2 「学識経験者」は、当該分野に関し高い識見を有する者を示す。
- 3 領域欄に示した各領域は、限定的なものではない。
- 4 複数の区分にまたがる学際領域については、関係する複数の部会において協議し対応する。

8 「総合科学」教育・研究評価専門委員会構成

区 分	領 域	キーワード	人 数
当該分野の専門家	総合科学	哲学、思想史、芸術論、文学、言語学、史学、科学史、 思想・芸術史 技術史	25
		国際・地域系 地域文化論、異文化論、文化人類学、国際関係論	
		社会・制度系 法学、政治学、経済学、経営学、社会学、政策科学	
		人間・環境系 健康・スポーツ科学、地理学、地球環境論、 人文地理学、心理学、教育学	
		物質・生命系 天文・宇宙科学、地球科学、物理学、化学、環境化学、 生物科学、環境生理・生態学	
		数理・情報系 情報学、数理科学、統計学	
		学際工学系 経営工学、人間工学、システム工学、教育工学、 社会工学、医療工学、金融工学、環境工学、情報工学	
		学 識 経 験 者	3
	計		28

- (注)1 教育評価については、必要に応じ、評価員を追加して評価を行う。
- 2 研究評価については、専門委員会の委員に評価員を加えて構成し、ピア・レビューによる研究水準の判定を行う。
- 3 「学識経験者」は、当該分野に関し高い識見を有する者を示す。
- 4 領域ごとに示した各キーワードは、限定的なものではない。
- 5 各領域の委員数やバランス等については、今後決定される評価対象機関の学問分野に応じ検討する。

平成14年度着手の評価事業スケジュール

13年度

大学評価・学位授与機構	
3月	大学評価委員会 ○実施計画決定 ○専門委員の推薦依頼

14年度

15年度

4月		○目的及び目標に関する事前調査回答期限
5月		
6月	大学評価委員会 ○専門委員選考	大学評価委員会 ○目的及び目標に関する事前調査結果の 大学等へのフィードバック
7月	大学評価委員会 ○実施要綱決定	
8月	専門委員会	評価チーム 書面調査、訪問調査 ヒアリング 評価報告書原案作成
9月	(評価内容・方法等の検討)	部会 研究内容・水準評価
10月	大学評価委員会 ○自己評価実施要項(案)等の決定 ○自己評価実施要項(案)等の意見照会	
11月		
12月	大学評価委員会 ○大学等へ自己評価実施要項等通知	大学評価委員会 ○大学等へ評価結果通知
1月	○説明会	(意見の申立て)
2月		
3月		大学評価委員会 ○評価結果公表

学位授与事業の状況

短期大学・高等専門学校卒業生、専門学校修了者等に対する学士の学位授与関係

○1,598人に学士の学位を授与　—平成13年度10月期申請分—

平成13年度10月期に学士の学位授与申請のあった短期大学・高等専門学校卒業生及び専門学校修了者等1,770人のうち、1,598人に対し学士の学位が授与されました。

今回の学士の学位授与については、関係各専門委員会で行われた修得単位の審査及び学修成果・試験の審査の結果に基づき、平成14年2月14日（木）開催の学位審査会において審査が行われました。

＜平成13年度10月期申請者数及び授与者数＞

専攻分野	専攻区分	申請者数	授与者数
文 学	国語国文学	6人	6人
	英語・英米文学	5	3
	歴史学	4	2
	心理学	2	2
	宗 教 学	2	2
教 育 学	教 育 学	81	81
神 学	神 学	1	0
社 会 学	社 会 学	1	1
教 養	比較文化	1	1
	地 域 研 究	17	15
	科学技術研究	1	1
学 芸	科学技術研究	2	0
社会科学	社 会 科 学	2	0
法 学	法 学	1	1
政 治 学	政 治 学	2	1
商 学	商 学	2	1
経 営 学	経 営 学	8	6
理 学	数学・情報系	1	1
	生 物 学 系	1	1
	総 合 理 学	3	1
看 護 学	看 護 学	127	95

保健衛生学	検査技術科学	43人	43人
	放射線技術科学	90	88
	理 学 療 法 学	26	26
	作 業 療 法 学	10	10
鍼 灸 学	鍼 灸 学	1	1
栄 養 学	栄 養 学	224	191
工 学	機 械 工 学	240	220
	電気電子工学	239	230
	情 報 工 学	46	43
	応 用 化 学	72	70
	生 物 工 学	9	9
	材 料 工 学	35	32
	土 木 工 学	81	77
	建 築 学	57	51
芸術工学	芸 術 工 学	27	27
農 学	農 学	12	12
家政学	家 政 学	5	3
芸術学	音 楽	69	50
	美 術	212	192
体 育 学	体 育 学	2	2
合 計		1,770	1,598

認定課程（各省庁大学校）修了者に対する学位授与関係

○19人に博士の学位を授与

－大学院博士課程相当の課程修了者－

平成13年9月に博士の学位授与申請のあった防衛医科大学校医学教育部医学研究科修了者19人全員に博士（医学）の学位が授与されました。

医学・薬学専門委員会医学部会での論文審査及び試験の結果に基づき、平成14年2月14日（木）開催の学位審査会で審査の結果、学位授与が決定されたもので、平成14年2月27日（水）には学位記授与式が行われ、機構長から、学位記を手にした修了者に対しお祝いと温かい激励の言葉が送られました。

＜博士の学位授与申請者数及び授与者数＞

認 定 課 程 名	専攻分野	申請者数及び授与者数
防衛医科大学校 医学教育部医学研究科	医 学	19 人

○837人に学士の学位を授与

－学部相当の課程修了者－

大学の学部に対応する教育を行う課程として認定された課程の平成14年3月修了者から学士の学位授与の申請があり、平成14年3月15日（金）開催の学位審査会における審査の結果、837人の申請者全員に学士の学位が授与されました。

＜学士の学位授与申請者数及び授与者数（課程別）＞

認 定 課 程 名	専攻分野	申請者数及び授与者数
防衛大学校本科	理 学 工 学 社会科学	26 人 272 69
	計	367
防衛医科大学校 医学教育部医学科	医 学	62
独立行政法人 水産大学校本科	水 産 学	149
海上保安大学校本科	海上保安	38
気象大学校大学部	理 学	11
職業能力開発総合 大学校長期課程	工 学	210
合 計		837

認定専攻科関係

○新たに19専攻を認定 ー平成14年度ー

平成13年9月に申出のあった短期大学及び高等専門学校専攻科の認定について、専攻科の教育課程及び教員組織等の審査を付託された各専門委員会の審査の結果が、学位審査会に報告されました。そ

の報告に基づき、平成14年2月14日（木）開催の学位審査会における審査を経て、次の12校19専攻を平成14年度から認定することが決定され、機構長から専攻科の設置者等に通知しました。

1. 短期大学専攻科

	専 攻 科 名	専 攻 名	入学 定員	修業 年限	設 置 者	適用時期
1	尚綱女学院短期大学専攻科	保育専攻	10	2 年	学校法人 尚綱女学院	平成14年4月1日
2	育英短期大学専攻科	幼児教育専攻	20	2 年	学校法人 群馬育英学園	平成14年4月1日
3	桐生短期大学専攻科	助産学専攻	15	1 年	学校法人 桐丘学園	平成14年4月1日
4	東京成徳短期大学専攻科	幼児教育専攻	10	2 年	学校法人 東京成徳学園	平成14年4月1日
5	日本赤十字武蔵野短期大学専攻科	助産学専攻	15	1 年	学校法人 日本赤十字学園	平成14年4月1日
6	山梨学院短期大学専攻科	食物栄養専攻	15	2 年	学校法人 山梨学院	平成14年4月1日
		保育専攻	15	2 年		
7	兵庫大学短期大学部専攻科	美術デザイン専攻	20	2 年	学校法人 睦学園	平成14年4月1日
8	鈴峯女子短期大学専攻科	栄養専攻	10	2 年	学校法人 鈴峯学園	平成14年4月1日

2. 高等専門学校専攻科

	専攻科名	専攻名	入学定員	修業年限	設置者	適用時期
9	八戸工業高等専門学校専攻科	機械・電気システム工学専攻	8	2年	国	平成14年4月1日
		物質工学専攻	4			
		建設環境工学専攻	4			
10	和歌山工業高等専門学校専攻科	メカトロニクス工学専攻	8	2年	国	平成14年4月1日
		エコシステム工学専攻	8			
11	松江工業高等専門学校専攻科	生産・建設システム工学専攻	8	2年	国	平成14年4月1日
		電子情報システム工学専攻	12			
12	都城工業高等専門学校専攻科	機械電気工学専攻	8	2年	国	平成14年4月1日
		物質工学専攻	4			
		建築学専攻	4			

○認定専攻科の教育の実施状況等の審査

本機構の認定を受けた短期大学及び高等専門学校の専攻科は、認定後5年ごとに教育の実施状況等についての審査を受けることとされています。

平成13年度は平成8年4月1日認定の専攻科に係る審査が行われ、機構発足以来5回目の審査となりました。

各専門委員会における教育課程及び教員組織等に

についての審査結果に基づき、平成14年2月14日（木）開催の学位審査会において教育の実施状況等の適否について審査が行われ、審査対象となった25校32専攻（短期大学専攻科20校21専攻、高等専門学校専攻科5校11専攻）全てが「適」と判定され、機構長から専攻科の設置者等に通知しました。

<平成13年度教育の実施状況等の審査結果一覧>

1. 短期大学専攻科

	専攻科名	専攻名	入学定員	修業年限	設置者	審査結果
1	北海道大学医療技術短期大学部専攻科	助産学特別専攻	20	1年	国	適
2	長崎大学医療技術短期大学部専攻科	助産学特別専攻	20	1年	国	適
3	聖霊女子短期大学専攻科	生活文化専攻	10	2年	学校法人 聖霊学園	適
4	国際学院埼玉短期大学専攻科	幼児教育専攻	20	2年	学校法人 国際学院	適
5	青山学院女子短期大学専攻科	国文専攻	40	1年	学校法人 青山学院	適
6	駒澤短期大学専攻科	放射線技術科学専攻	20	1年	学校法人 駒澤大学	適
7	女子美術大学短期大学部専攻科	造形専攻	75	1年	学校法人 女子美術大学	適
		服飾専攻	15	1年		
8	聖徳栄養短期大学専攻科	食物栄養専攻	20	1年	学校法人 オリムピア学園	適
9	武蔵野女子大学短期大学部専攻科	幼児教育専攻	10	1年	学校法人 武蔵野女子学院	適
10	横浜美術短期大学専攻科	造形美術専攻	45	2年	学校法人 トキワ松学園	適
11	新潟工業短期大学専攻科	生産システム工学専攻	16	2年	学校法人 新潟科学技術学園	適
12	名古屋短期大学専攻科	保育専攻	10	2年	学校法人 桜花学園	適
13	成安造形短期大学専攻科	服飾文化専攻	30	2年	学校法人 京都成安学園	適
14	奈良芸術短期大学専攻科	美術専攻	20	2年	学校法人 聖心学園	適
15	鳥取短期大学専攻科	日本文化専攻	10	2年	学校法人 藤田学院	適

16	広島文教女子大学短期大学部専攻科	栄養専攻	10	2年	学校法人 武田学園	適
17	長崎純心大学短期大学部専攻科	保育専攻	10	1年	学校法人 純心女子学園	適
18	長崎短期大学専攻科	食物栄養専攻	10	2年	学校法人 九州文化学園	適
19	尚絅短期大学専攻科	食物栄養専攻	25	2年	学校法人 尚絅学園	適
20	鹿児島女子短期大学専攻科	食物栄養専攻	10	1年	学校法人 志學館学園	適

2. 高等専門学校専攻科

専攻科名		専攻名	入学定員	修業年限	設置者	審査結果
1	沼津工業高等専門学校専攻科	機械・電気システム工学専攻	8	2年	国	適
		制御・情報システム工学専攻	8	2年		
		応用物質工学専攻	4	2年		
2	明石工業高等専門学校専攻科	機械・電子システム工学専攻	8	2年	国	適
		建築・都市システム工学専攻	8	2年		
3	阿南工業高等専門学校専攻科	構造設計工学専攻	8	2年	国	適
		電気・制御システム工学専攻	8	2年		
4	北九州工業高等専門学校専攻科	生産工学専攻	8	2年	国	適
		制御工学専攻	8	2年		
		化学工学専攻	4	2年		
5	札幌市立高等専門学校専攻科	インダストリアル・デザイン専攻	20	2年	札幌市	適

○「商船学」の単位修得の専攻基準を制定

これまで未設定であった専攻分野「商船学」の単位修得の専攻基準が、平成14年2月14日（木）開催の学位審査会において、下記のとおり制定されました。

専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）

専門科目（40単位以上）	
【A群（講義・演習科目）】（30単位以上） ○商船学に関する総合的な科目 ○航海学に関する科目 ○機関学に関する科目 【B群（実験・実習科目）】（6単位以上） ○商船学に関する実験・実習科目	左のA群の区分のうちから2区分以上にわたること
関連科目（4単位以上）	
◇商船学の基礎となる理工学に関する科目 ◇商船学の周辺分野に関する科目	

■専門科目の例■

【A群（講義・演習科目）】

○商船学に関する総合的な科目
商船システム工学、交通システム工学、危機管理学、船舶工学、安全工学、環境工学など

○航海学に関する科目

海上交通工学、運航管理学、港湾設計、海洋環境工学、海洋情報計測論、航海システム論、船舶制御論、操船リスクアナリシス、船体リスクアナリシス、海上危険物輸送論、載貨論、海上輸送システム論、輸送環境論、海運政策論、海洋国際管理論、海運経済論、海上保険論、海事国際法、海上労働法、海法、海洋人間科学、海事英語など

○機関学に関する科目

蒸気動力工学、内燃機関工学、機関システム工学、熱機関工学、動力プラント工学、燃焼工学、原子エネルギー学、工業熱力学、伝熱工学、冷凍・空調工学、流体工学、トライボロジー、流体機械工学、推進工学、電気工学、電磁機器学、電子工学、制御工学、機関計測制御工学、エネルギー変換工学、材料力学、金属材料学、機械設計・製図など

【B群（実験・実習科目）】

○商船学に関する実験・実習科目

航海学実験、海事科学実験、機関学実験、機関学実習、海技実習、学内船舶実験・実習、船舶実習など

これまでの学位授与・専攻科認定の状況等

○学位授与の状況

1. 短期大学・高等専門学校卒業生、専門学校修了者等が大学等においてさらに一定の学修を行った場合の学士の学位の授与（学位規則第6条第1項）

＜平成4年10月期～平成13年10月期申請分＞

専攻分野	専攻区分	授与者数
文 学	国 語 国 文 学	87人
	英語・英米文学	80
	独語・独 文 学	2
	仏語・仏 文 学	9
	歴 史 学	9
	哲 学	3
	心 理 学	17
	宗 教 学	41
教 育 学	教 育 学	548
神 学	神 学	9
社 会 学	社 会 学	10
	社 会 福 祉 学	31
教 養	比 較 文 化	4
	地 域 研 究	75
	国 際 関 係	2
	科学技術研究	6
学 芸	比 較 文 化	2
	地 域 研 究	8
	国 際 関 係	1
	科学技術研究	1
社 会 科 学	社 会 科 学	2
法 学	法 学	29
政 治 学	政 治 学	9
経 済 学	経 済 学	26
商 学	商 学	37

経 営 学	経 営 学	43人
理 学	数 学 ・ 情 報 系	12
	物理学・地学系	7
	化 学 系	7
	生 物 学 系	14
	総 合 理 学	10
看 護 学	看 護 学	1,118
保健衛生学	検 査 技 術 科 学	445
	臨 床 工 学	2
	放射線技術科学	948
	理 学 療 法 学	265
	作 業 療 法 学	196
鍼 灸 学	鍼 灸 学	40
栄 養 学	栄 養 学	772
工 学	機 械 工 学	978
	電 気 電 子 工 学	1,006
	情 報 工 学	212
	応 用 化 学	405
	生 物 工 学	36
	材 料 工 学	170
	土 木 工 学	304
	建 築 学	183
芸 術 工 学	芸 術 工 学	134
農 学	農 学	47
家 政 学	家 政 学	43
芸 術 学	音 楽	379
	美 術	1,242
体 育 学	体 育 学	19
合 計		10,085

2. 本機構が認定する教育施設の課程修了者に対する学士、修士及び博士の学位授与（学位規則第6条第2項）

(1) 学士（大学の学部に対応する教育を行う課程）

＜平成3年度～平成13年度＞

認定課程名	専攻分野	授与者数
防衛大学校本科	理 学	278人
	工 学	3,229
	社会科学	712
	計	4,219
防衛医科大学校 医学教育部医学科	医 学	704
独立行政法人 水産大学校本科	水 産 学	1,830
海上保安大学校本科	海上保安	448
気象大学校大学部	理 学	150
職業能力開発総合 大学校長課程	工 学	2,373
合 計		9,724

(2) 修士（大学院の修士課程に対応する教育を行う課程）

＜平成4年度～平成13年度＞

認定課程名	専攻分野	授与者数
防衛大学校 理工学研究科 (前期課程)	理 学	51人
	工 学	607
	計	658
防衛大学校 総合安全保障研究科	社会科学	57
職業能力開発総合 大学校長課程	工 学	202
独立行政法人水産大学校 水産学研究科	水 産 学	57
合 計		974

(3) 博士（大学院の博士課程に対応する教育を行う課程）

＜平成3年度～平成13年度＞

認定課程名	専攻分野	授与者数
防衛医科大学校 医学教育部医学研究科	医 学	171人

○各省庁大学校の課程の認定状況

(1) 大学の学部に対応する教育を行う課程

認定課程名	修業年限	認定年月日
防衛大学校本科	4年	平成3年12月18日
防衛医科大学校 医学教育部医学科	6年	平成3年8月30日
独立行政法人 水産大学校本科	4年	平成3年12月18日
海上保安大学校本科	4年	平成3年12月18日
気象大学校大学部	4年	平成3年12月18日
職業能力開発総合 大学校長課程	4年	平成3年12月18日
国立看護大学校 看護学部看護学科	4年	平成13年3月26日

(2) 大学院の修士課程に対応する教育を行う課程

認定課程名	修業年限	認定年月日
防衛大学校理工学研究科 (前期課程)	2年	平成3年12月18日
防衛大学校 総合安全保障研究科	2年	平成9年3月11日
職業能力開発総合 大学校長課程	2年	平成3年12月18日
独立行政法人水産大学校 水産学研究科	2年	平成6年6月23日

(3) 大学院の博士課程に対応する教育を行う課程

認定課程名	修業年限	認定年月日
防衛医科大学校 医学教育部医学研究科	4年	平成3年8月30日
防衛大学校理工学研究科 (後期課程)	3年	平成13年3月12日

○短期大学及び高等専門学校専攻科の認定状況

区 分		年 度 別 認 定 専 攻 数												平成14年度 現 在 認 定 専 攻 数	入学定員
		平成 4年度	平成 5年度	平成 6年度	平成 7年度	平成 8年度	平成 9年度	平成 10年度	平成 11年度	平成 12年度	平成 13年度	平成 14年度			
短期 大学 専攻 科	文 学	4 (1)	8 (1)	3 (1)	8 (6)	3 (1)			1	1			17 (8)	295人(130)	
	教 育 学	1	5	8 (2)	2 (1)	4 (2)	5 (4)	4 (3)	2 (1)	2 (2)	4 (3)	4 (4)	31 (22)	510 (380)	
	社 会 学	3	2 (1)	1	1								6	210 (0)	
	教 養		2	1	1 (1)	1 (1)	2 (1)			1 (1)			8 (4)	175 (60)	
	経済・商学・経営		1 (1)		2 (1)	1	1 (1)						4 (3)	66 (46)	
	看 護 学	8	9	2	1	2		4	3	3	1	2	22	460 (0)	
	保 健 衛 生 学				1	1					1		3	50 (0)	
	鍼 灸 学							1					1	10 (0)	
	家政学・栄養学	2	8 (2)	4	7 (4)	8 (5)	4 (2)	4 (1)	4 (3)	1 (1)	2 (1)	2 (2)	35 (21)	540 (365)	
	工学・芸術工学				3 (3)	1 (1)		1 (1)		2 (2)			6 (6)	73 (73)	
	農 学		1					1 (1)					2 (1)	23 (8)	
	芸 術 学	10 (8)	4 (1)	1 (1)	1	3 (2)		4 (4)	1 (1)	6 (3)		1 (1)	22 (16)	465 (345)	
	体 育 学				1 (1)								1 (1)	20 (20)	
	そ の 他	1											0		
		計	20校 29専攻 (9)	29校 40専攻 (6)	15校 20専攻 (4)	21校 28専攻 (17)	22校 24専攻 (12)	12校 12専攻 (8)	17校 19専攻 (10)	11校 11専攻 (5)	10校 16専攻 (9)	7校 8専攻 (4)	8校 9専攻 (7)	103校 158専攻 (82)	2,897人 (1,427)
専攻 専門 学校	工学・芸術工学	2校 5専攻 (5)	4校 8専攻 (8)	3校 8専攻 (8)	3校 7専攻 (7)	5校 11専攻 (11)	3校 7専攻 (7)	4校 8専攻 (8)	3校 7専攻 (7)	7校 17専攻 (17)	5校 12専攻 (12)	4校 10専攻 (10)	42校 100専攻 (100)	754人 (754)	
合 計		22校 34専攻 (14)	33校 48専攻 (14)	18校 28専攻 (12)	24校 35専攻 (24)	27校 35専攻 (23)	15校 19専攻 (15)	21校 27専攻 (18)	14校 18専攻 (12)	17校 33専攻 (26)	12校 20専攻 (16)	12校 19専攻 (17)	145校 258専攻 (182)	3,651人 (2,181)	

(注1) () 内は、2年制の専攻で内数である。

(注2) 「平成14年度現在認定専攻数」欄の学校及び専攻数については、実数を記載（同一の学校が複数の専攻科の認定を受けたこと、修業年限1年の専攻を廃止して修業年限2年の専攻を設置し新たに認定（平成14年度認定）したこと及び専攻を廃止したこと等により単純に累計とらない）。

平成14年度学位授与関係

○平成14年度学士の学位授与申請受付期間及び試験日程

申請の時期の区分	受 付 期 間	試験の区分	試 験 場			試 験 日
平成14年度4月期	平成14年4月1日(月) ～ 平成14年4月7日(日)	小論文試験 (注1)	東京	大阪		平成14年6月16日(日)
	*当日消印有効 *申請書類の提出方法は郵送(書留)のみ	面接試験 (注2)	東京			平成14年6月16日(日)
平成14年度10月期	平成14年10月1日(火) ～ 平成14年10月7日(月)	小論文試験 (注1)	東京	大阪	福岡 (注3)	平成14年12月15日(日)
	*当日消印有効 *申請書類の提出方法は郵送(書留)のみ	面接試験 (注2)	東京			平成14年12月7日(土) 又は平成14年12月8日 (日)のうち機構が指定する日

(注1) 学修成果としてレポートを提出した者

(注2) 専攻分野「芸術学」でレポート以外の学修成果を提出した者

(注3) 平成14年10月期より、新たに福岡で小論文試験を実施する

○学士の学位授与制度及び申請方法等関連の刊行物

大学評価・学位授与機構では、学士の学位授与制度及び申請方法等について説明した冊子等を毎年作成し、希望者からの請求により郵送しています。

ご希望の方は、①希望する冊子の名称及び必要部数を記載したメモ、②返信用封筒(角型2号に送料分切手貼付)を同封した上で、本機構の学位審査課まで請求してください。

なお、2部以上請求される場合の郵送料等、不明な点がございましたら学位審査課にお問い合わせください。

◎大学評価・学位授与機構管理部学位審査課

〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1 Tel 03-3942-2355 (問い合わせ専用)

冊子の名称	主 な 内 容	郵 送 料 (1部のみ請求する場合)
リ ー フ レ ッ ト	本機構が行う学士の学位授与制度(短大・高等専門学校卒業者及び専門学校修了者等を対象とするもの)を簡略に説明したもの	120円
新しい学士への途	本機構が行う学士の学位授与制度(短大・高等専門学校卒業者及び専門学校修了者等を対象とするもの)及びその申請方法を詳細に説明したもの	240円
学位授与申請書類	学位授与申請に必要な書類等のうち、本機構が指定する書類様式及び封筒等を綴ったもの	200円
機構認定短期大学・高等専門学校専攻科一覧	本機構が認定する短期大学・高等専門学校専攻科の開設する授業科目、学生募集の概要、授業料などを掲載したもの	390円
科目等履修生制度の開設大学一覧	科目等履修生制度を開設する大学についての実施学部、出願期間、授業料などを掲載したもの	580円

○平成14年度学位授与関係審査スケジュール

区 分	学 士 の 学 位 授 与 (6条1項関係)	専 攻 科 関 係 〔●：認定関係 ◎：レビュー関係〕	各省庁大学校関係 〔○：6条2項関係 ◎：レビュー関係〕	備 考
4 月	4 月期申請受付 (4/1～4/7)	●認定済専攻科から状況報告書の提出 (学年度開始2か月以内)	課程修了者 (修士相当課程) から申請受付 (課程修了後1か月以内)	
5 月	学 位 審 査 会 (5月10日 (金) 11:00～13:00)			
	○専門委員会 (5/13～5/31) 修得単位の審査 審査担当委員の決定等 試験問題の作成	◎専攻科の概要等の書類提出締切 (5/31まで)	○専門委員会 (～8月上旬) 審査担当委員の決定等 口頭試問の実施	
6 月	小論文・面接試験実施 (6/16) 試験に係る判定原案作成			
7 月	○専門委員会 (7/8～7/26) 学修成果・試験の審査 総合判定			
8 月	学 位 審 査 会 (8月27日 (火) 10:30～13:00)			
	学士の学位授与 (8月下旬)	◎専攻科の教員調書等及び審査 書類提出通知 (8/31まで)		
9 月		●専攻科の認定申出 (9/30まで) ◎次年度レビューの通知 (9/30まで)	課程修了者 (博士相当課程) から申請受付 (課程修了後1か月以内) 修士の学位授与 ◎次年度レビューの通知 (9/30まで)	
10 月	10月期申請受付 (10/1～10/7)	◎専攻科の教員調書等及び審査 書類提出締切 (10/31まで)		
11 月	学 位 審 査 会 (11月7日 (木) 10:30～13:00)			
	○専門委員会 (11/11～11/29) 修得単位の審査 審査担当委員の決定等 試験問題の作成	●◎専門委員会 (～1月下旬) 教員等の審査	○専門委員会 (～1月下旬) 教員等の審査 審査担当委員の決定等 口頭試問の実施	
12 月	面接試験実施 (12/7, 8) 小論文試験実施 (12/15) 試験に係る判定原案作成			
1 月	○専門委員会 (1/14～1/31) 学修成果・試験の審査 総合判定		○専門委員会 (1月下旬) 可否の判定	
2 月	学 位 審 査 会 (2月13日 (木) 10:30～13:00)			
	学士の学位授与 (～3月下旬)		博士の学位授与	
3 月			課程修了者 (学部相当課程) から学士の申請受付 (課程修了後1か月以内)	
	学 位 審 査 会 (3月14日 (金) 11:00～13:00)			
			学士の学位授与	

機構ホームページにおけるFAQの公開について

本機構が行う学位授与に関するFAQ（よくある質問とその答え）を機構ホームページ上に新設しました（平成14年2月25日より）。



10周年記念誌を機構ホームページに掲載

学位授与事業10周年記念誌「学位授与10年のあゆみ」（PDF形式）を機構ホームページ上に掲載しました（平成14年3月15日より）。

見込申請者に対する学修成果・試験の審査結果の通知について

平成13年度10月期より、認定専攻科修了見込申請者に対して、学修成果・試験の結果の通知を行っております。これは、認定専攻科から大学院への進学希望者に対して判定結果の早期通知の要望があったためです。ただし、この通知は最終的な合否判定結果ではなく、機構で認定専攻科における修得見込単位を確認の後、正式な合否の判定結果が通知されます。

○会議の開催状況

運営委員会

第41回 平成14年3月1日（金）

・議事

- (1) 機構長候補者の推薦について
- (2) 評価研究部専任教員の選考について
- (3) 学位審査研究部長の選考について
- (4) 客員教授及び客員助教授の選考について
- (5) 学位審査会審査委員及び専門委員の選考について
- (6) 大学評価事業の実施状況
平成12年度・平成13年度着手の大学評価の進捗状況について
- (7) 学位授与事業の実施状況等
 - ①学位授与事業の実施状況について
 - ②学位授与事業に関する自己点検・評価の外部検証について
- (8) 平成14年度機構関係予算案について

第42回 平成14年4月15日（月）

・会長の選出

・議事

- (1) 評価研究部専任教員の選考について
- (2) 名誉教授の選考について
- (3) 大学評価委員会委員の選考について
- (4) 平成13年度着手の大学評価に係る評価員の選考について
- (5) 学位審査会専門委員の選考について
- (6) 平成14年度機構事業実施計画（案）について
- (7) 大学評価事業関係
 - ①平成14年度に着手する大学評価事業実施基本計画について
 - ②平成12年度着手の大学評価の評価結果について
- (8) 学位授与事業関係



運営委員会（H14. 4. 15）

大学評価委員会

第13回 平成14年3月20日（水）

・議事

- (1) 評価結果に対する対象機関からの意見への対応について
- (2) 平成12年度着手の大学評価の評価結果について（オーバービュー）
- (3) 「意見の申し立て」の取り扱いと評価結果の公表についての申し入れの回答について
- (4) 平成12年度着手の大学評価の対象機関に対する意見照会について
- (5) 平成13年度着手の大学評価に係る評価員の選考について
- (6) 平成14年度に着手する大学評価事業実施基本計画について
- (7) 平成14年度に着手する大学評価の専門委員の選考方針等について



大学評価委員会（H14. 3. 20）

大学評価委員会専門委員会 <平成14年2月～平成14年4月>

<平成12年度着手分>

開催回数

・全学テーマ別評価

- (1) 教育サービス面における社会貢献に関する
専門委員会 1回

・分野別教育評価

- (1) 理学系教育評価評価チーム主査・副主査会議
1回
(2) 医学系教育評価チーム会議(1チーム) 1回

・分野別研究評価

- (1) 理学系研究評価専門委員会 1回

学位審査会

第58回 平成14年3月15日(金)

・議事

- (1) 認定課程修了予定者に係る学士の学位授与の
審査について
(2) 認定課程修了者に係る修士の学位授与の申請
予定について
(3) 大学設置基準の一部改正と機構における関連
規程の整備について
(4) 学位(博士)授与申請論文の取扱いについて
(5) 平成14年度審査スケジュールについて
(6) 学位授与事業に関する自己点検・評価の外部
検証について
(7) その他

学位審査会専門委員会 <平成14年3月～平成14年4月>

1. 審査事項

- ①学位規則第6条第2項の規定に基づく修士の
学位授与申請に係る審査について

2. 開催回数

- 社会科学専門委員会 1回

○OECD コンサルタント、機構を訪問

平成14年3月12日（火）、経済協力開発機構（OECD）より、Helen Connell 博士が機構を訪れました。

Connell 博士の来日は、OECD の科学技術政策委員会（Committee for Scientific and Technological Policy: CSTP）に設置されている「研究機関の運営と資金供給に関するアドホック WG」の関連調査を目的としたもので、機構側からは、林評価研究部助手及び青島評価事業部企画主幹が出席しました。

はじめに、機構の概要及び機構が行っている大学評価についての説明を行い、その後に、特に研究評価に関する事項を中心とした質疑応答が行われました。

このWGでは、現在、対象各国についてのヒアリング及び分析を行っており、平成14年秋までに最終報告書を完成させる予定となっております。



○モンゴル教育科学技術文化省副大臣、機構を訪問

平成14年3月13日（水）、モンゴル国より、エルデンスレン教育科学技術文化省副大臣が機構を訪れました。エルデンスレン副大臣の来日は、日本の教育やIT（Information Technology）の現状についての視察を目的としたもので、エルデンスレン副大臣御自身は、初めての来日でした。

機構側からは、荒船副機構長、館評価研究部教授及び青島評価事業部企画主幹が出席しました。

はじめに、機構の概要及び機構が行っている大学評価についての説明を行い、その後に、質疑応答及び意見交換が行われました。

特に、エルデンスレン副大臣は、モンゴル国では現在教育改革を推進しており、教育や研究の評価についてもこれからとても重要であるというお考えをお持ちで、多くの質問が寄せられ、活発な議論が交わされました。



○機構新施設の整備の概要

本機構の施設については、平成12年の組織改組に伴う事業規模の拡大等により、現在、3箇所（学術総合センター、筑波大学大塚地区、東京工業大学すずかけ台キャンパス（旧長津田キャンパス））の施設を借用し業務を行っていますが、平成12年度補正予算により、文部科学省直轄工事として新施設の整備が進められることとなりました。

新施設の整備予定地は、一橋小平国際キャンパス（小平市）の一面約1万m²で、周辺を閑静な住宅地、武蔵野の面影を残す緑地帯に囲まれた静かな環境下にあります。

建物の設計にあたっては、周辺環境との調和、アカデミックな事業を行う機関にふさわしい機能的な空間づくり、人に優しい施設づくり、周辺建物との調和、LCC（ライフサイクルコスト）の低減、等を最大限考慮しました。

執務空間は、環境負荷の少ない南・北側に配置され、建物中央部には吹き抜けを設け、自然光、自然通風を取り込むとともに、可動間仕切壁、システム天井を多用するなど将来の機能変更にも十分対応しうるフレキシビリティな空間創出が可能なものとなっています。

また、屋上緑化、太陽光発電、雨水利用など、自然エネルギーを積極的に利用した計画にするとともに、夜間電力を利用して空調負荷を低減させる方式を採用するなど、ランニングコストの軽減を可能なものとしています。

工事は、平成14年度末に竣工の予定です。



新施設完成予想図

○研究紀要「学位研究」第16号の発行

大学評価・学位授与機構における調査研究の成果として、「学位研究」第16号を刊行しました。内容は次のとおりです。

○論文

- | | |
|---|-------|
| ・“Masert of Engineering” と呼ばれる学士レベルの学位 | 齋藤 安俊 |
| ・アイルランドの Institutes of Technology と学位授与 | 齋藤 安俊 |
| ・フランスにおける大学外高等教育について —IUTを中心として— | 白鳥 義彦 |

○研究ノート・資料

- | | |
|--|-------|
| ・ドイツの大学と大学外高等教育機関における IT 利用新教育支援方策の調査
—ニューメディア教育プロジェクト（PT—NMB）— | 神谷 武志 |
| ・米国における専門職学位プログラム
—教育系プロフェッショナルスクールの Ed.D. — | 橋本 鉦市 |
| ・アメリカの職業教育のユニット化について 国際継続教育訓練協会と継続教育ユニット | 森 利枝 |

なお、「学位研究」第16号の一部は、機構のホームページから閲覧が可能です。機構ホームページ（<http://www.niad.ac.jp/>）をご覧ください。

○海外渡航一覧（平成14年2月～平成14年3月）

所 属	職 名	氏 名	目的国	目 的	期 間
学位審査研究部	助教授	吉川裕美子	ド イ ツ	ドイツ高等教育のグローバル化と学修・学位制度改革に関する調査研究	H14. 2. 4～H14. 3. 4
学位審査研究部	助教授	森 利枝	韓 国	大学外高等教育の展開状況と大学との関係に関する日米欧の比較研究に係る現地調査研究	H14. 2.24～H14. 2.28
学位審査研究部	助教授	濱中 義隆	アメリカ	米国における大学外高等教育の学修の評価及び単位認定制度に関する調査研究	H14. 2.28～H14. 3.31
学位審査研究部	教 授	小野 嘉夫	ド イ ツ オランダ	ITを利用した高等教育の単位累積制度と単位認定に関する研究についての調査研究	H14. 3. 2～H14. 3. 9
機 構 長		木村 孟	イギリス	留学生受入れ施策及び短期留学状況調査	H14. 3. 3～H14. 3. 8
評 価 研 究 部	助 手	齊藤 貴浩	アメリカ イギリス オランダ ド イ ツ	欧米における大学評価システム及び評価手法、並びにITの活用等の現状と課題についての調査	H14. 3. 3～H14. 3.31
評 価 研 究 部	教 授	喜多 一	イギリス	ITを利用した高等教育の単位累積制度と単位認定に関する研究に係る調査及び資料収集	H14. 3. 9～H14. 3.15
学位審査研究部	助教授	森 利枝	イギリス	ITを利用した高等教育の単位累積制度と単位認定に関する研究に係る調査及び資料収集	H14. 3. 9～H14. 3.15
学位審査研究部	教 授	齋藤 安俊	アメリカ	大学外高等教育の展開状況と大学との関係に関する日米欧の比較研究に関する調査研究	H14. 3.10～H14. 3.17
学位審査研究部	助教授	森 利枝	アメリカ	大学外高等教育の展開状況と大学との関係に関する日米欧の比較研究に係る調査及び資料収集	H14. 3.20～H14. 3.29

○規程及び規則等の改正等

次の規則等を制定等しました。

- ・大学評価・学位授与機構情報化委員会設置要項の一部改正
 - 〈理 由〉情報セキュリティポリシーを策定する必要があるため。
 - 〈内 容〉委員会の任務に「情報セキュリティに関すること」を加えた。
 - 〈制定日〉平成14年1月18日 〈施行日〉平成14年1月18日
- ・大学評価・学位授与機構施設委員会設置要項の新規制定
- ・大学評価・学位授与機構における施設の有効活用に関する規則の新規制定
 - 〈理 由〉小平本館の施設整備の進行に伴い機構内で基本方針、施設の維持管理方策及び有効利用等を図るため。
 - 〈内 容〉委員会設置要項で、施設の基本計画、有効活用等に関する業務を担当する委員会の任務、組織等を定め、有効活用に関する規則で施設を最大限に有効活用するため、基本理念、管理運営、利用の許可・期間、施設の自己点検・評価等を定めた。
 - 〈制定日〉平成14年3月1日 〈施行日〉平成14年4月1日
- ・専攻科認定届出に係る書類の様式及び提出部数に関する細則の一部を改正する細則の新規制定
- ・認定を受けた専攻科における教育の実施状況等の審査に関する細則の一部を改正する細則の新規制定
- ・大学又は大学院に相当する教育を行う課程の認定の届出に係る書類の様式及び提出部数に関する細則の一部を改正する細則の新規制定
- ・認定を受けた課程における教育の実施状況等の審査に関する細則の一部を改正する細則の新規制定
 - 〈理 由〉大学設置基準の一部が改正されたため。
 - 〈内 容〉届出様式に教育方法の実践例、作成した教科書、教材等の欄等を新たに追加した。
 - 〈制定日〉平成14年3月15日 〈施行日〉平成14年4月1日
- ・学位（博士）授与申請論文の取扱いについての全部改正
 - 〈理 由〉平成16年以降理工学系から新たに申請されることとなったため。
 - 〈内 容〉申請する学位論文について、原著で原著であることを原則とすること等を新たに定めた。
 - 〈制定日〉平成14年3月15日 〈施行日〉平成14年4月1日
- ・大学評価・学位授与機構教員選考規程の一部を改正する規程の新規制定
- ・大学評価・学位授与機構評価研究部教員選考内規の一部改正
 - 〈理 由〉大学評価・学位授与機構組織運営規則（文部科学省令第6号）及び大学評価・学位授与機構の機構長等の選考基準（文部科学大臣裁定）の一部が改正されたため。
 - 〈内 容〉教員に助手を加えた。
 - 〈制定日〉平成14年3月29日 〈施行日〉平成14年4月1日

- ・大学評価・学位授与機構評価事業部企画調整室設置要項の新規制定
- ・大学評価・学位授与機構評価事業部評価調査室設置要項の新規制定
- ・大学評価・学位授与機構評価事業部企画主幹室設置要項の廃止
 - 〈理 由〉企画主幹の増設及びこれに伴う評価事業部の円滑な事務を遂行するため。
 - 〈内 容〉企画主幹室（室長、評価調査第1係～同第3係）を廃止し、企画調整室（室長、企画調整第1係、同第2係）並びに評価調査室（室長、評価調査係）を新たに組織した。
 - 〈制定日〉平成14年3月29日　　〈施行日〉平成14年4月1日
- ・大学評価・学位授与機構学位授与事業将来構想検討委員会設置要項の新規制定
 - 〈理 由〉学位授与事業に関する自己点検・評価及び外部検証を実施した結果、将来展望について検討する必要性が生じたため。
 - 〈内 容〉機構の学位授与事業の今後の在り方を検討するため、委員会の任務、組織等について定めた。
 - 〈制定日〉平成14年4月12日　　〈施行日〉平成14年4月12日
- ・大学評価・学位授与機構における競争的資金の間接経費の執行に係る取扱いについての新規制定
- ・大学評価・学位授与機構における科学研究費補助金等に係る間接経費事務取扱要領の新規制定
- ・大学評価・学位授与機構科学研究費補助金等研究支援者取扱要領の新規制定
 - 〈理 由〉科学研究費補助金等の一部種目の競争的資金について、間接経費として研究費の30％が措置されることとなり、また、同補助金等の直接経費により研究支援者を雇用することができるよう関係通知が改正されたため。
 - 〈内 容〉間接経費の使途及び間接経費の受入事務並びに研究支援者の資格等任用関係事務を定めた。
 - 〈制定日〉平成14年4月12日　　〈施行日〉平成14年4月12日

○委員の異動等

運営委員会

運営委員会（大学評価・学位授与機構の事業の運営実施に関する事項で機構長が必要と認めるものについて、機構長の諮問に応じる）の運営委員20人のうち、1人の方が退任し、新たに1人の方が就任されました。

- ・退任（平成14年3月31日）

氏 名	退 任 時 の 職	在 任 期 間
齋 藤 安 俊	大学評価・学位授与機構教授	平成4年6月1日～平成14年3月31日

- ・就任（平成14年4月1日）

氏 名	現 職	任 期
神 谷 武 志	大学評価・学位授与機構教授	平成14年4月1日～平成16年3月31日

学位審査会

学位審査会（学位の授与の審査並びに大学以外の教育施設に置かれる課程の認定及び短期大学・高等専門学校専攻科の認定の審査を行う）の委員19人全員の任期満了に伴い、6人の方々が退任し、13人の方々が再任されるとともに、新たに6人の方々が就任されました。

- ・退任（平成14年3月31日）

氏 名	退 任 時 の 職	在 任 期 間
齋 藤 安 俊	大学評価・学位授与機構教授	平成 5年7月1日～平成14年3月31日
多 田 邦 雄	横浜国立大学大学院教授	平成11年4月1日～平成14年3月31日
樋 口 龍 雄	東北大学大学院教授	平成11年4月1日～平成14年3月31日
別 府 輝 彦	日本大学教授	平成13年4月1日～平成14年3月31日
松 本 女 里	高知女子大学教授	平成11年4月1日～平成14年3月31日
三 角 洋 一	東京大学大学院教授	平成13年4月1日～平成14年3月31日

- ・審査委員19人（○新任 ＊再任）（委員長：岩村 秀、副委員長：石川隆俊）
新任・再任者の任期は平成14年4月1日～平成15年3月31日

氏 名	現 職	氏 名	現 職
○阿 曾 洋 子	大阪大学教授	＊中 司 利 一	筑波大学教授
＊石 川 隆 俊	大学評価・学位授与機構教授	＊中 原 一 彦	東京大学大学院教授
＊岩 村 秀	放送大学教授	＊難 波 憲 二	広島大学大学院教授
＊小 野 嘉 夫	大学評価・学位授与機構教授	＊支 倉 崇 晴	早稲田大学教授
○神 谷 武 志	大学評価・学位授与機構教授	○白 井 良 明	大阪大学大学院教授
＊北 原 和 夫	国際基督教大学教授	○西 村 仁 嗣	筑波大学教授
＊倉 田 忠 男	新潟薬科大学教授	＊前 田 富士男	慶應義塾大学教授
＊佐々木 雄 太	名古屋大学大学院教授	○八 木 克 道	大学評価・学位授与機構教授
＊館 田 昭	大学評価・学位授与機構教授	＊渡 辺 馨	日本大学教授
○豊 田 昌 倫	関西外国語大学教授		

○人事異動（平成14年3月～平成14年5月）

月 日	氏 名	異 動 内 容	異 動 前 等 の 職 名
【機構長】			
14. 4. 1	木 村 孟	再 任	機構長
【副機構長】			
14. 4. 1	齊 藤 秀 昭	配置換	北海道大学事務局長
14. 4. 1	福 島 健 郎	配置換	副機構長
【評価研究部】			
14. 3. 1	井 田 正 明	昇 任	評価研究部助教授
14. 4. 1	木 村 靖 二	常勤併任	評価研究部教授（任期：平成15年3月31日まで）
14. 4. 1	田 中 成 明	常勤併任	評価研究部教授（任期：平成15年3月31日まで）
14. 4. 1	森 敏	常勤併任	評価研究部教授（任期：平成15年3月31日まで）
14. 4. 1	米 澤 彰 純	転 任	評価研究部助教授
14. 4. 1	芳 鐘 冬 樹	採 用	評価研究部助手
14. 5. 1	堀 内 昭 義	常勤併任	評価研究部教授（任期：平成15年3月31日まで）
【学位審査研究部】			
14. 3.31	齋 藤 安 俊	定 年	学位審査研究部教授・学位審査研究部長
14. 4. 1	橋 本 鉦 市	転 任	東北大学大学院教育学研究科助教授
14. 4. 1	小 野 嘉 夫	併 任	学位審査研究部長（任期：平成16年3月31日まで）
14. 4. 1	八 木 克 道	採 用	学位審査研究部教授
【管理部長】			
14. 3.31	井 上 明	辞 職	独立行政法人国立青年の家江田島青年の家所長
14. 4. 1	山 本 晃	配置換	管理部長
【管理部総務課】			
14. 4. 1	長 瀧 繁	転 任	埼玉大学学生部学生課課長補佐
14. 4. 1	本 田 英 則	転 任	福島大学庶務課
14. 4. 1	壬 生 康 章	転 任	管理部総務課課長補佐
14. 4. 1	安 倍 武 司	配置換	管理部総務課企画係長
14. 4. 1	多 田 健太郎	配置換	管理部総務課（総務係）
14. 4. 1	浅 田 大 輔	転 任	管理部総務課（人事係）
14. 4. 1	佐 藤 克 憲	転 任	管理部総務課（企画係）
【管理部会計課】			
14. 4. 1	永 山 雅 美	転 任	東京工業大学経理部主計課予算掛長
14. 4. 1	寅ヶ口 敬 祥	転 任	東京大学施設部整備計画課計画第二掛長
14. 4. 1	保 坂 義 則	転 任	東京工業大学総務部企画広報室
14. 4. 1	原 稔 継	配置換	管理部会計課総務係長
14. 4. 1	下 村 義 之	昇 任	管理部会計課用度係長
14. 4. 1	佐 藤 典 明	昇 任	管理部会計課専門職員（施設担当）
14. 4. 1	池 田 洋	昇 任	管理部会計課総務係主任
14. 4. 1	安 室 研	転 任	管理部会計課（経理係）
14. 4. 1	杉 尾 和 彦	転 任	管理部会計課（用度係）
【管理部情報課】			
14. 4. 1	宍 戸 和 良	昇 任	管理部情報課情報企画係長
14. 4. 1	尾 曾 功 一	配置換	管理部情報課大学学習情報係長
14. 4. 1	松 橋 秀 邦	昇 任	管理部情報課大学学習情報係主任
14. 4. 1	小 川 憲 和	転 任	管理部情報課（評価情報係）
14. 4. 1	黒 嶋 亮	転 任	管理部情報課（大学学習情報係）
【管理部学位審査課】			
14. 4. 1	高 橋 正 幸	昇 任	浜松医科大学業務部医事課長
14. 4. 1	宮 倉 尚 之	転 任	文部科学省高等教育局私学部私学行政課企画係長
14. 4. 1	井 上 博 司	転 任	横浜国立大学大学院国際社会科学研究所等大学院係長
14. 4. 1	市 川 政 幸	転 任	東京工業大学工学部附属高等学校
14. 4. 1	平 尾 耕 二	採 用	管理部学位審査課課長補佐（学位審査専門官）
14. 4. 1	近 藤 正 仁	配置換	管理部学位審査課学修審査第1係長
14. 4. 1	茅 間 利 行	配置換	管理部学位審査課学修審査第2係長

14. 4. 1	石 川 いずみ	昇 任	管理部学位審査課認定課程係長	管理部学位審査課認定審査係主任
14. 4. 1	置 山 小 郷	昇 任	管理部学位審査課認定審査係主任	文部科学省高等教育局私学部私学行政課
14. 4. 1	鞍 元 玉 緒	配置換	管理部学位審査課（学修審査第1係）	管理部総務課（企画係）
14. 4. 1	小 枝 薫	転 任	管理部学位審査課（学修審査第2係）	一橋大学社会学部・社会学研究科
【評価事業部長】				
14. 4. 1	安 間 敏 雄	配置換	評価事業部長	文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課専修学校教育振興室長
【評価事業部企画主幹】				
14. 4. 1	加 藤 泰 久	配置換	評価事業部企画主幹	鹿児島大学経理部主計課長
【評価事業部評価第1課】				
14. 4. 1	平 尾 朋 美	転 任	大阪大学医学部附属病院医事課	評価事業部評価第1課（企画調整係）
14. 4. 1	及 川 幸 史	転 任	文部科学省高等教育局医学教育課	評価事業部評価第1課（全学評価第1係）
14. 4. 1	山 内 和 哉	配置換	評価事業部評価第1課全学評価第4係長	管理部総務課企画係長
14. 4. 1	鍋 井 史 郎	昇 任	評価事業部評価第1課全学評価第2係主任	評価事業部評価第2課（企画主幹室評価調査第2係）
14. 4. 1	明 野 亜 哉	昇 任	評価事業部評価第1課全学評価第3係主任	評価事業部評価第3課（企画主幹室評価調査第3係）
14. 4. 1	齊 藤 昭 文	昇 任	評価事業部評価第1課全学評価第4係主任	評価事業部評価第1課（全学評価第3係）
14. 4. 1	中 里 貴 司	配置換	評価事業部評価第1課（全学評価第1係）	管理部総務課（総務係）
14. 4. 1	前 原 忠 信	転 任	評価事業部評価第1課（全学評価第1係）	文部科学省高等教育局学生課
14. 4. 1	妻 井 広 幸	配置換	評価事業部評価第1課（全学評価第2係）	管理部情報課（評価情報係）
14. 4. 1	瀬戸口 幸 広	転 任	評価事業部評価第1課（全学評価第3係）	鹿屋体育大学教務課
14. 4. 1	田 島 義 久	転 任	評価事業部評価第1課（全学評価第4係）	新潟大学医学部附属病院医事課
【評価事業部評価第2課】				
14. 4. 1	佐 藤 敬 三	転 任	東北大学法学部・法学研究科会計係長	評価事業部評価第2課教育評価第3係長
14. 4. 1	伊 藤 敦 史	転 任	東京大学（文部科学省高等教育局高等教育企画課併任）	評価事業部評価第2課（教育評価第1係）
14. 4. 1	有 野 浩	転 任	東京大学教養学部等教務課	評価事業部評価第2課（教育評価第2係）
14. 4. 1	佐 藤 敏 徳	昇 任	評価事業部評価第2課教育評価第3係長	東京工業大学総務部人事課第1給与掛第1給与主任
14. 4. 1	織 田 隆 司	転 任	評価事業部評価第2課（教育評価第1係）	愛媛大学学務部教務課
14. 4. 1	吉 田 靖 生	転 任	評価事業部評価第2課（教育評価第1係）	宮城教育大学総務課
14. 4. 1	岩 間 優 介	転 任	評価事業部評価第2課（教育評価第1係）	東京医科歯科大学総務部総務課
14. 4. 1	吉 田 恭 浩	転 任	評価事業部評価第2課（教育評価第2係）	宮崎医科大学総務部庶務課
14. 4. 1	嶋 崎 公 英	転 任	評価事業部評価第2課（教育評価第2係）	福井大学会計課
14. 4. 1	山 田 剛 己	転 任	評価事業部評価第2課（教育評価第3係）	山梨大学契約室
14. 4. 1	高 橋 美都子	転 任	評価事業部評価第2課（教育評価第4係）	文部科学省高等教育局留学生課
【評価事業部評価第3課】				
14. 4. 1	増 田 敏 裕	転 任	大阪大学医学部等専門職員	評価事業部評価第3課研究評価第3係長
14. 4. 1	西 村 治	昇 任	評価事業部評価第3課研究評価第3係長	大阪大学経理部豊中調達センター室調達第一掛主任
14. 4. 1	玉 木 衛	配置換	評価事業部評価第3課研究評価第4係長	評価事業部評価第1課全学評価第4係長（企画主幹室評価調査第1係長）
14. 4. 1	砂 田 真 也	昇 任	評価事業部評価第3課研究評価第3係主任	評価事業部評価第3課（研究評価第3係）
14. 4. 1	渡 邊 貴 也	配置換	評価事業部評価第3課（研究評価第1係）	管理部総務課（人事係）
14. 4. 1	小 玉 亨	転 任	評価事業部評価第3課（研究評価第2係）	豊橋技術科学大学総務部庶務課
14. 4. 1	佐々木 光 一	転 任	評価事業部評価第3課（研究評価第3係）	小樽商科大学会計課
14. 4. 1	伊 藤 武	配置換	評価事業部評価第3課（研究評価第4係）	管理部情報課（評価情報係）
14. 4. 1	渡 部 秀 明	配置換	評価事業部評価第3課（研究評価第4係）	評価事業部評価第1課（企画主幹室評価調査第1係）
【評価事業部企画調整室】				
14. 4. 1	青 島 なな子	命	評価事業部企画調整室長	（評価事業部企画主幹室長）
14. 4. 1	阿 部 勝	命	評価事業部企画調整室企画調整第1係長	
14. 4. 1	山 口 登 之	命	評価事業部企画調整室企画調整第2係長	（評価事業部企画主幹室評価調査第2係長）
14. 4. 1	工 藤 秀 和	命	評価事業部企画調整室（企画調整第1係）	
14. 4. 1	高 橋 美都子	命	評価事業部企画調整室（企画調整第2係）	
【評価事業部評価調査室】				
14. 4. 1	加 藤 泰 久	命	評価事業部評価調査室長	
14. 4. 1	玉 木 衛	命	評価事業部評価調査室評価調査係長	
14. 4. 1	伊 藤 武	命	評価事業部評価調査室（評価調査係）	
14. 4. 1	渡 部 秀 明	命	評価事業部評価調査室（評価調査係）	

就 任 挨 拶

「御 挨 拶」

評価研究部助教授

袖 山 禎 之



本年1月1日付けで、評価研究部の助教授として着任いたしております。どうかよろしくお願い申し上げます。

私は、昭和63年に文部省に入省以来、文部省及び他の中央省庁、県教育委員会などの行政機関において業務に従事してまいりました。前任の文部科学省高等教育局高等教育企画課においては、大学設置認可審査に係る事務に携わり、また、前々任の文部省大臣官房政策課においては、政府の政策評価に関するガイドラインのとりまとめや、文部科学省の政策評価実施要項の立案に関わるなど、ここ数年は、いわゆる「評価」に関連する事務に多く携わってまいりましたが、この度、当機構において、教官としての立場から、大学評価に係る諸課題に携わらせていただくことになりました。

ご承知のとおり、現在、大学制度に関して、戦後始まって以来とも思われる大規模な改革を行うべく、検討が進められております。

国立大学の法人化については、文部科学省における調査検討会議の報告書がとりまとめられ、平成16年4月といわれる実施に向けて、いよいよ具体的な取組に入る段階を迎えております。

また、司法制度改革の一環として導入が検討されている「法科大学院」制度は、我が国の大学制度、大学院制度という観点からも、非常に大きなインパクトを持った内容を含むものであります。

これらの制度改革において共通するのは、いずれも「評価」、特に「第三者評価」が制度設計の大きな柱、キーワードとして位置づけられているということでもあります。

さらに、経済財政諮問会議や総合規制改革会議の提言等を契機として、中央教育審議会において、大学の設置認可の一層の弾力化及び第三者評価による適格認定制度の導入が議論されております。

このことは、21世紀の我が国において、大学評価が、大学の教育研究の質を保証し、改善向上を図るとともに、大学と社会をつなぐ「架け橋」の役割を担うものとして、必要不可欠の要素であるということを実にあらわしているものと思います。

もとより、今春に、当機構における第1回目の評価の試行結果が公表されたばかりであり、当機構、ひいては我が国の第三者評価の取組はようやく緒についたという段階であります。しかしながら、このような大学改革の大きな流れの中で、第三者評価機関であり、また評価研究機関でもある当機構に課せられた使命は大変重いものがあると思われまふ。

今後とも、試行錯誤はあると思われまふが、大学関係者等の協力を得ながら、よりよい評価の実施に向け、さらに取組を充実させていく必要があり、私も、微力ながら、その発展にわずかでも寄与できればと思っております。皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

そでやま・よしゆき 昭和39年生

平成13年12月まで文部科学省高等教育局高等教育企画課課長補佐

平成14年1月から現職

「御 挨 拶」

評価研究部助教授

井 田 正 明



本年3月より評価研究部に着任いたしました。約一ヶ月経過致しましたが、様々な点での転任前との変化の大きさに驚きなんとか適応していこうと奮闘致しております。

専攻分野はシステム科学一般であります。この「システム科学」とはなかなか定義がし難い分野ではありますが、「メタ的」ということばによって大雑把に表現できるのではないかと考えております。これに関連する分野は、情報・機械・電気・化学・土木などの工学や経営学・農学・数学などなどであり、それらに共通する概念を各分野の個別性を考えながらも抽象的に捉えていくという位置付けにあるといえるでしょう。

この分野におきましては研究の方向性としまして2種類あると考えられます。ひとつは、応用を意識しながらも数理的な特性を探索する基礎的な研究方向であり、もう一方は、一般的な思考をもって個別分野に潜む問題点や構造を抽出することにより当該システムを表現し問題解決をはかるという応用的な研究方向であります。

私個人といたしましては、これまではどちらかといいますと前者の立場をとっており、定義・補題・定理・証明・アルゴリズムの提案といった研究スタイルにおもしろみを感じてきたものであります。たとえば、最適化問題における双対性は、広く物理学や数学に通ずる基礎概念であります。広域な分野一般に通ずる構造を理解したときのおもしろみは学問の根底的な喜びのひとつとあってよいのではないのでしょうか。しかしながら私自身これまでシステム科学を専攻するとしながらも、後者の立場での研究経験が十分ではなかったことを痛感致しております。

この度、大学評価という大きな目標のもとにさまざまな分野の専門家の先生方および事務官の方々とともに研究・業務を行えるすばらしい機会をいただきましたことは、まさにシステム科学を専攻する研究者として望んでいたものであります。大学評価においても「メタ的」な意味でシステム科学と共通するものを感じるのですが（大学評価に双対概念を発見できるか……は不明ではありますが）、これまでにはない貴重な経験になるものと期待しており、皆様からお教を頂きながら本機構へ寄与できるよう日々業務に励んでいく所存にあります。

皆様方には今後もさまざまなことでご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

いだ・まさあき 昭和39年生 博士（工学）

平成14年2月まで京都大学大学院情報学研究科システム科学専攻助手

平成14年3月から現職

専門：システム科学

退任・轉任挨撈

退官にあたり

齊 藤 安 俊

本年3月31日をもって定年退官いたしました。学位授与機構として創設後の翌年に着任してから約10年、その間、平成12年4月に大学評価・学位授与機構へと大きく改組され、審査研究部は学位審査研究部に変わりましたが、管理部学位審査課（旧学務課）と一体となって新しい学位授与事業に従事いたしました。着任当時は、田中郁三機構長の下で審査研究部は黒羽亮一郎長と館教授に私が加わったという陣容で、大学校関係の学位授与はすでに始まっておりましたが、単位積み上げ型の学士の学位授与は、基本方針が策定させていただいて、単位修得基準、授与要件などの具体的な検討はこれから始まるという段階でした。会議室をもたない機構の悩みがその頃から7、8年続くのですが、当時の思い出につきましては、学位授与事業10周年記念誌「学位授与—10年のあゆみ」の編集後記に記しましたので、ここでは私個人の心に残ったことの一部を述べることにいたします。

学位授与機構の所在地である東京工業大学長津田キャンパス（現在すずかけ台キャンパス）は、私にとっては古巣のようなところですから、図書館は自由に使える、自然環境に恵まれている、通勤はラッシュと逆方向で楽である、都心への交通にも慣れているなどの点で大変便利であり、気楽でした。平成12年の改組を機に学位審査関係の部課が筑波大学キャンパスの大塚地区に移転しましたとき、満員電車で揉まれる、都会的騒音が多いなどを考えると若干憂鬱でした。しかしながら、いったん落ち着いてみますと、周囲は緑に囲まれ、東大植物園や桜の「はりま坂」も近く、文教地区としてなかなか良い環境でした。それにも増してプラスになりましたことは、長津田では1階と2階に別れていた学位審査研究部がほんの一部以外は同一階にまとまり、専用の会議

室、資料室、作業室をもてたことです。これによって教官相互の意思の疎通が格段に高まり、審査打合せや調査研究がやりやすくなったと思っています。

学位審査研究部の調査研究業務は主として高等教育学関係の教官が担当し、成果の多くは機構の紀要「学位研究」に発表されています。審査部門の私ですが、館教授に勧められて第1号に執筆してから投稿を続ける気になり、外国の大学のシラバスを和訳して紹介しただけではないかと批判されることを承知しながら、審査の合間に拙文を草しました。在職中は科学研究費補助金による海外出張の機会も比較的多く、常に「学位研究」に投稿することを念頭に置いて次のテーマを考え、また、訪問先を決めるのは楽しい仕事でもありました。高等教育学の専門家でないことから（語学力の不足もありますが）、訪問先でポイントをおさえた質問や調査が十分にできなかったり、また、専門用語の和訳には苦勞して、調査研究部門教官やその他の専門家の論文や著書を参考に、高等教育用語英和対照表を作成しかけたこともありました。これも個人的な思い出の一つとなっています。

それでは、木村機構長はじめ皆様のますますのご健勝を祈念してご挨拶といたします。

さいとう・やすとし 昭和6年生 工学博士

東京工業大学名誉教授

平成4年6月から本機構教授

平成9年4月から審査研究部長をつとめる

(平成12年4月学位審査研究部長に改称)

平成14年3月任期滿了退任

專門：高温固体化学、材料科学

転任にあたって

橋 本 鉦 市

私が機構に赴任したのは、かれこれ4年半前になります。当時、機構は改組前で、学位授与機構という名称でした。所在地は、東急田園都市線すずかけ台駅の東工大長津田キャンパスの一角。駅前にはコンビニエンスストアと数件の飲食店が点在するだけの人寂しい雰囲気、線路に沿った坂道をやや前かがみになりながら上り詰めると、キャンパスに林立する巨大なビルディング群が一挙に視界に入ってくるという具合でした。機構は、そうした研究棟の一つの1階と2階部分を間借りさせてもらっていました。私の研究室は、1階部分の西向きの一室で、窓からはキャンパスを取り巻く深い木立が見渡せ、生協や学食にも近く、思い返せば毎日結構便利だった様な気がします。ただ、あまり学食のメニューのバラエティはありませんでしたが……。また、1階部分と言うことで、これまで目にしたことのないような異形のムカデが、四季を問わずよく部屋の排水溝から顔を出して、毎回仰天していたことを覚えています。私の機構での生活は、こんな研究室から始まりました。

専門が教育社会学という教育現象を社会事実として分析するという立場から、機会があればアンケート調査などにも関わってきたこともあって、機構では専ら調査研究に携わり、短大、高専卒業などを基礎資格とする学士学位授与者（いわゆる一項学士）に対する大規模な「フォローアップ調査」を、館先生のご指導のもと企画・実施・分析いたしました。さらに、この調査を敷衍させて、学士学位授与者の正確な現況の把握をはかるため、それ以降、より詳細な継続的な追跡調査を毎年2回にわたって、1年後の授与者と5年後の授与者双方に対して実施していくことにもなりました。また、これらのアンケート調査と並行して、学位申請者の個人的データの計量的分析も行い、その調査研究の結果の一部は、単位累積加算による学士学位授与という、今後の学位審査業務にも一定の貢献をしたのではないかと考えています。いずれの作業も、同僚の吉川、森、濱中の諸先生方とともに、ストーリーをどう立てようか、

個別データの数値が合わない、などと論文や学会の締め切りに冷や冷やししながらも、夜遅くまで一緒に大騒ぎしたことを懐かしく思い返します。またこうした国内調査だけではなく、諸外国にも足を運んで調査・研究をするという機会を与えてもらいました。米国におけるチャーターオーク州立大学の学外学位プログラムと、オーストラリアの学位制度の調査研究が私の研究分担でしたが、平成13年1月から1年間のUCLAでの在外研究は、非常にchallengingな毎日でした。機構の10周年という節目にもあった時期に、こうした機会を寛大にも許していただいた齋藤審査研究部長ならびに学位審査研究部の先生方には、感謝の言葉もございません。また、機構が行う学位授与業務に関して、各種専門委員会・審査会などにも同席しましたが、各専門分野での諸大家の先生方の警咳に接することができ、また高等教育政策の最前線をも垣間見られたことは、今後の研究にも非常に大きいものでありました。

この4月から、思いかけず、また大学の現場に戻ることになりましたが、機構での4年余りの月日は、私の教育学者としての視点や思考に、多大なインパクトを与えたことは間違いありません。また設置後、常に右肩上がりに増加してきた学位申請者数からすれば、機構の学位授与業務の役割はさらに重要な意義を持つてくることは確かでしょうし、と同時に新たな方法論とポリシーの確立もまた必要になってくるものと省察されます。今後のさらなるご飛躍とご発展を、僭越ながら、同じ高等教育関係者として祈念しております。

はしもと・こういち 昭和40年生

平成9年9月まで東京大学大学院教育学研究科助手
(大学総合教育研究センター兼任)

平成9年10月から平成14年3月まで本機構学位審査研究部助教授

平成14年4月から東北大学大学院教育学研究科助教授

専門：教育社会学（高等教育論）

転任ご挨拶

齊藤 秀昭

このたび、4月1日付けで北海道大学事務局長へ転任することになりました。

昨年1月6日付けで事務担当の副機構長として着任以来、約1年3ヶ月の短期間ではありましたが、関係者の皆様にご多大のお世話になりましたことを、この誌上をお借りして御礼申し上げます。

私が機構に着任したときは、ちょうど平成12年度着手に係る大学評価事業の実施要項及び手引書作成の大詰め作業をしている真っ只中でした。連日、多くの職員が夜遅くまで仕事をしており、私の正直な第一印象は、「大変な職場に飛び込んでしまった」というものでした。

その後、平成12年度着手分につきましては、大学評価事業の説明会、各大学等における自己評価作業、専門委員会における評価作業と評価結果案の取り纏め、それに対する各大学等の意見申立てを経て、去る3月20日に初めての評価結果の公表を行うに至りました。また、昨年秋からは、平成12年度着手分の評価事業に加え、平成13年度着手分に係る実施要項及び手引書作りも同時進行し、私にとりまして、本当にあっという間に過ぎ去った機構勤務でした。

この間、微力ながら、これらの仕事に事務の立場から参画することができ、貴重な経験をさせていただいたことに心から感謝している次第です。

機構の大学評価につきましては、初めての実施ということもあり、評価の対象機関である各大学等のもとより、専門委員会において評価の仕事に直接携わっていただいた諸先生からも、より良い大学評価システムに改善する視点から様々なご意見をいただいております。これらのご意見は、既に平成13年度着手分の実施要項等に取り入れられているものも少なくありませんが、今後検討すべき課題も多く、この時期に短期間で機構を去りますことには、内心忸怩たるものがあります。

これからは、評価実施機関の中で大学評価委員会や専門委員会の活動を事務的にサポートする立場から転じ、評価を受ける側である大学の自己評価作業に事務の立場から関わることになります。機構の大学評価の重要性を認識する者の一人として、立場は変わりましたが、機構の大学評価システムの進化に関心を持ち続け、ささやかではあっても何がしかの寄与が出来るよう努めてまいりたいと考えております。

最後に、大学評価・学位授与機構のますますの発展を祈念いたしますとともに、在任中にお寄せいただきました数々のご指導とご厚誼に対しまして重ねて御礼申し上げ、転任のご挨拶とさせていただきます。

さいとう・ひであき 昭和24年生

昭和47年文部省（現文部科学省）採用

東京農工大学、山形大学を経て平成13年1月から平成14年3月まで本機構副機構長

平成14年4月より北海道大学事務局長

海外渡航余話

在外研究余話 —母国へのメールから—

橋 本 鉦 市

昨年1月から1年間、UCLAに在外研究の機会を与えられ、米国ロサンジェルスに滞在した。「余話」の本来の趣旨からすれば、滞在中のこぼれ話を面白可笑しく紹介するなり、あるいは生真面目に研究の成果の一部でも披露するものなのだろう。しかし、毎日がこぼれ話のようなお粗末な有様だったし、研究も遅々たる歩みで紹介するのも気が退ける。そこで、日本に向けて折々の日常をつづったメールの中から、いくつかを抜粋してその責を果たすことにしたい。

[2001/2/9] ロスは朝晩冷え込みますが、日中は初夏のような暑さが続いており、サングラスは必需品のようです。さて、何とかこちらの生活のSet upもようやく一段落という感じです。社会保険番号、銀行口座、大学の身分証の申請・発行の手続きやらであちこちをかけずり回り、あっという間に時間が過ぎてしまいました。少々、へたり気味です。住居に関しては、やはり大学のHouseは半年か1年待ちという状況と言うことで、ネットで物件を検索して、大学近くのアパートをやっとの事で見つけだしました。UCLA自体が高級住宅街の一角にあるので、ここWestwoodの家賃や物価もバカ高く辟易しております。来週、H先生が短期のサバティカルから帰ってくるとのことです。受け入れ先のW先生と一緒にランチをすることになっていますが、下手な英語で四苦八苦しそうです。

[2001/5/24] 子どもが風邪を引き、続いて親もうつされ、さんざんな毎日です。ロスは乾燥しているので、どうも長引いてしまいます。さて、異郷の地におりますと、日本のいいところも悪いところも、見えてくる気がします。しかし、一昔前とくらべると、インターネットという道具は、祖国を遠く離れて、という地理的・心理的な距離感を喪失させてしまうようです。加えて、祖国の仕事仲間は、そうした感慨に耽るようなひとときすら許してくれないようです……。とはいえ、こうして異国で生活を営むようになって、はや三か月。日本のことやアメリカのことにいろいろと考えを馳せることも多くなりました。ただ訳知り顔で、「アメリカでは・・・」などという出羽の守にはなりたくないの、寡黙な仏頂面をして町中を歩いています。どうも、この西海岸では似つかわしくないようです。

[2001/8/3] 日本の暦の上ではもう残暑になりますか。いつも夏空のロサンジェルスでは、四季の移ろいがある母国が懐かしくなります。大学は夏休みですが、給料をもらっていない時期は全く大学に来ない、メールも見ないという教官の態度は、なかなか徹底しています。ただでさえ、学期中ですら会う暇もないほど忙しくして、学生も困ってしまうだろう、と思います。受け入れ先の先生は、土曜

や夜間まで働かされて、くたくたとぼやいておりました。どこも「多忙化」というのがキーワードのようです。

[2001/9/12] こちらのテレビでは、一日中、ニューヨークやワシントンの惨状を流し続けています。小さな子どもが飛行機に乗っていたかと思うと、いたたまれません。ニューヨークの友達にも、電話が通じず、市長が退去命令を出したようなので、行く先もつかめず、心配です。ロスでは、空港や主だったビルは全て閉鎖されているようです。家の近くの連邦関係のビルも、ライフルを持ったFBIに厳重に囲まれています。つい先日は、ロスでは直下型地震に襲われたばかりなのに、またこんな状況なので、市民も気もそぞろという感じです。とりあえず、家族共々元気でいますが、どうも落ち着かない感じがしています。

[2002/1/1] 明けましておめでとうございます。こちらではクリスマスが終わってまた普段の生活が始まったようで、日本のお正月という雰囲気ではなく心寂しい感じがいたします。それでも、今日はリトル東京に繰り出して、日本人会主催の和太鼓や空手の演舞を見てきました。久しぶりに日本の伝統芸に接することができ、有意義な時間を過ごしました。大学の方は12月半ばからほとんど機能停止したままですが、2、3日もすれば新学期に向けて、そろそろ学生も戻ってくるでしょう。しかしハロウィーンからクリスマスとここ1ヶ月の喧噪の中で、学生たちもレポートや試験に追われて大変そうでしたが、ほとんどの学生はそれを両立させていたようで、非常にタフな印象を受けました。

[2002/1/17] 昨年一年は、アメリカという異国の地で生活するという新しい体験をいたしました。後半期はテロ事件などから、心落ち着かない毎日でしたが、それもまたこちらの国民の異なる一面を垣間見られたのではないかと思います。振り返ってみますと、ありきたりではありますが、長いと思っておりましたがあっという間だったような気がします。今週末、1年の在外研究を終えて、帰国いたします。来週、ご挨拶に伺えればと思いますが、今後ともこれまで同様、ご指導、ご教示、よろしくお願いいたします。それでは、UCLAのメールアドレスは、今日限りを持ってクローズいたします。

読み返してみると気恥ずかしい限りですが、さいごに1年という長期にわたる在外研究の機会を与えて下さり、また留守中ご迷惑をおかけした機構の教職員の方々、特に学位審査研究部の諸先生方には、こころより感謝いたします。

はしもと・こういち 昭和40年生

平成9年9月まで東京大学大学院教育学研究科助手（大学総合教育研究センター兼任）

平成9年10月から平成14年3月まで本機構学位審査研究部助教

平成14年4月から東北大学大学院教育学研究科助教授

専門：教育社会学（高等教育論）

教職員一覽等

教職員一覽

(平成14年5月現在)

機構長

副機構長(教授)

副機構長

○評価研究部

部長(事務取扱)

教授

教授

教授

教授

教授

教授

教授

教授

教授(併)

教授(併)

教授(併)

教授(併)

助教授

助教授

助教授

助手

助手

助手

木村 孟

荒船 次郎

福島 健郎

(木村 孟)

石川 隆俊

岩田 末廣

大塚 雄作

川口 昭彦

喜多 一昭

館田 昌則

徳田 恒夫

山本 靖二

木村 成明

田中 昭義

堀内 昭敏

森田 正明

井田 禎之

袖山 彰純

米澤 彰純

齊藤 貴浩

林 隆之

芳 鐘冬樹

○学位審査研究部

部長(教授)

教授

教授

教授

助教授

助教授

助教授

助教授

客員教授

客員教授

客員教授

客員助教授

小野 嘉夫

神谷 武志

六車 正章

八木 道隆

濱中 義光

宮崎 和枝

森川 裕美子

吉川 理秀

井村 秀仁

岩原 義子

安山 礼子

○管理部

部長

山本 晃

総務課長

柳橋 雪男

課長補佐

壬生 康章

総務係長

辻田 直人

係員

多田 健太郎

事務補佐員

磯村 桂子

人事係長

小玉 清輔

係員

浅田 大輔

企画係長

安倍 武司

係員

大西 賢太郎

係員

佐藤 克憲

会計課長

小山 登

課長補佐

山下 利幸

総務係長

原田 稔

主任

池田 洋樹

係員

奥田 直奈

事務補佐員

江波戸 身

経理係長

水安 均

係員

落室 研

係員

井惠 美穂

事務補佐員

柴寄 義一

用度係長

酒下 武

係員

田尾 典

係員

杉藤 勝

専門職員(施設担当)

佐岩 勝

専門職員付

情報課長

岡上 三

課長補佐

松田 明

情報企画係長

戸島 良

係員

川勝 和

評価情報係長

黒川 雄

係員

星川 美

係員

小曾 和一

大学学習情報係長

尾松 亮

主任

橋嶋 秀

係員

立井 英

ネットワーク管理係長

黒土 喜

係員

光 広

学位審査課長	木平	林尾	透二
課長補佐	延置	耕都	香郷
認定審査係長	三矢	山國	博貴
主任			
係員			
事務補佐員		崎和	歌子
学修審査第1係長	近富	藤田	正高
係員	田中	篤玉	廣子
係員	鞍野	元口	緒枝
事務補佐員	茅小	間枝	利行
学修審査第2係長	石小	川向	いづみ
係員			彦
認定課程係長			
係員			
○評価事業部			
部長	安間	敏雄	
企画主幹（企画調整室長）	青島	なな子	
企画調整第1係長	阿部	秀勝	
係員	工藤	博和	
事務補佐員	上山	登之	
企画調整第2係長	高山	口橋	美都子
係員			
企画主幹（評価調査室長）	加藤	泰久	
評価調査係長	玉木	衛武	
係員	伊藤	秀明	
係員	渡部		
評価第1課長	神田	和富	明雄
課長補佐	清中	久仁彦	
全学評価専門官	田中	明弘	
全学評価第1係長	三野	脇伸	善一
主任	宮本	原忠	信司
係員	根前	里貴	実司
係員	中今	福夕	保史
事務補佐員	石鍋	井田	広郎
全学評価第2係長	山妻	井瀬	成俊
主任	川中	村野	重哉
係員	明内	田口	幸英
係員	瀬戸	崎長	
全学評価第3係長			
主任			
係員			
係員			

全学評価第4係長	山齊	内藤	和昭	哉文
主任	田菊	島池	義博	久之
係員				
係員				
評価第2課長	中佐	野藤	正哲	昭爾
課長補佐	二小	塚野	伸耕	和志
教育評価専門官	若織	山田	美隆	穂司
教育評価第1係長	中岩	山間	範優	靖介
係員	吉久	田保	靖正	哲史
係員	三中	浦尾	将淑	乃浩
教育評価第2係長	中吉	嶋崎	恭公	英靖
主任	丹佐	羽藤	敏正	徳明
係員	門日	田野	剛己	裕
係員	山久	田慈		
教育評価第3係長				
係員				
係員				
係員				
評価第3課長	徳立	田野	次雅	男敏
課長補佐	大前	本藤	昌昌	勉三
研究評価専門官	松佐	成邊	浩貴	孝文
研究評価第1係長	井渡	部川	順重	也一
係員	関古	野出	昌美	雄男
係員	平山	橋木	津子	崇篤
係員	本熊	玉村		亨治
係員	小西	田木	真光	也由
研究評価第2係長	砂佐	平次	直剛	己健
主任	々々			
係員	大末			
研究評価第3係長				
主任				
係員				
係員				

電話番号一覧

(平成14年5月現在)

一ツ橋地区(03-4212-ダイヤルイン)

〒101-8438

千代田区一ツ橋2-1-2 (学術総合センター内)

所 属	部屋番号等	内 線
機構長	(木村) (11F 1101)	8 0 9 4
副機構長	(荒船) (11F 1102)	8 0 7 3
副機構長	(福島) (11F 1103)	8 0 7 6

評価研究部 (10F)

石川教授	(1004)	8 0 4 1
岩田教授	(1007)	8 0 5 0
大塚教授	(1019)	8 0 2 3
川口教授	(1005)	8 0 4 4
喜多教授、井田助教授、芳鐘助手	(1021)	8 0 2 9
舘 教授	(1017)	8 0 2 0
徳田教授	(1006)	8 0 4 7
山本教授	(1003)	8 0 3 8
木村(靖)教授	(1008)	8 0 5 2
田中教授	(1002)	8 0 3 5
堀内教授	(1001)	8 0 3 2
森 教授	(1018)	8 0 1 7
袖山助教授	(1020)	8 0 2 6
米澤助教授	(1016)	8 0 1 4
齊藤助手	(1015)	8 0 1 2
林 助手	(1014)	8 0 1 0
評価研究部 FAX		8 1 2 1

管理部 (11F・10F)

管理部長	(山本) (1104)	8 0 7 7
------	-------------	---------

総務課 (1112)

課長	(栢橋)	8 2 0 0
課長補佐	(壬生)	8 2 0 1
総務係長	(辻)	8 2 0 2
総務係	(多田)	8 2 0 3
〃	(磯村)	8 2 0 4
人事係長	(小玉清)	8 2 0 5
人事係	(浅田)	8 2 0 6
企画係長	(安倍)	8 2 0 8
企画係	(大西、佐藤克)	8 2 0 9
F A X		8 2 1 0

会計課 (1013)

課 長	(小山)	8 1 1 1
課長補佐	(山下)	8 1 1 2
総務係長	(原)	8 1 1 3
総務係主任	(池田)	8 1 1 4
総務係	(奥田、江波戸)	8 1 1 4
経理係長	(水落)	8 1 1 5
経理係	(安室、酒井、柴寄)	8 1 1 6
用度係長	(下村)	8 1 1 7
用度係	(武田、杉尾)	8 1 1 8
専門職員(施設担当)	(佐藤典)	8 0 6 1
専門職員付	(岩脇)	8 0 6 1
F A X		8 1 2 0

評価事業部 (11F)

評価事業部長	(安間) (1105)	8 0 7 8
--------	-------------	---------

企画調整室 (1112)

企画主幹・室長	(青島)	8 1 0 0
---------	------	---------

企画調整第1係長	(阿部)	8 1 0 1
企画調整第1係	(工藤、上)	8 1 0 2
企画調整第2係長	(山口)	8 1 0 3
企画調整第2係	(高橋)	8 1 0 4
F A X		8 1 6 5

評価調査室 (1114)

企画主幹・室長	(加藤)	8 1 3 8
評価調査係長	(玉木)	8 1 3 9
評価調査係	(伊藤、渡部)	8 1 4 3
F A X		8 1 6 4

評価第1課 (1112)

課 長	(神田)	8 1 5 9
課長補佐	(清水)	8 1 5 2
全学評価専門官	(田中久)	8 1 6 6
全学評価第1係長	(三野)	8 1 5 6
全学評価第1係主任	(宮脇)	8 1 5 7
全学評価第1係	(根本)	8 1 5 8
〃	(前原)	8 1 0 5
〃	(中里、今福)	8 1 0 6
全学評価第2係長	(石踊)	8 1 6 0
全学評価第2係主任	(鍋井)	8 1 6 8
全学評価第2係	(山田健)	8 1 7 0
〃	(妻井、川瀬)	8 1 0 8
全学評価第3係長	(中村)	8 1 5 3
全学評価第3係主任	(明野)	8 1 5 4
全学評価第3係	(内田)	8 1 5 5
〃	(瀬戸口、長崎)	8 1 0 7
全学評価第4係長	(山内)	8 1 6 1
全学評価第4係主任	(齊藤昭)	8 1 6 2
全学評価第4係	(田島)	8 1 6 3
〃	(菊池)	8 1 6 7
F A X		8 1 6 5

評価第2課 (1114)

課 長	(中野)	8 1 4 4
課長補佐	(佐藤哲)	8 1 5 0
教育評価専門官	(二塚)	8 1 5 1
教育評価第1係長	(小野)	8 1 4 5
教育評価第1係	(若山)	8 1 7 2
〃	(織田)	8 1 7 3
〃	(中山、岩間)	8 1 7 4
〃	(吉田靖、久保)	8 1 7 5
教育評価第2係長	(三浦)	8 1 4 6
教育評価第2係主任	(中尾)	8 1 7 7
教育評価第2係	(吉田恭)	8 1 7 8
〃	(嶋崎、丹羽)	8 1 7 9
教育評価第3係長	(佐藤敏)	8 1 4 7
教育評価第3係	(門田)	8 1 8 2
〃	(日野)	8 1 8 3
〃	(山田剛、久慈)	8 1 8 4
F A X		8 1 6 4

評価第3課 (1113)

課 長	(徳田)	8 1 3 7
課長補佐	(立野)	8 1 2 9
研究評価専門官	(大前)	8 1 3 0
研究評価第1係長	(松本)	8 1 3 1
研究評価第1係	(佐藤昌)	8 1 2 4
〃	(井成)	8 1 2 5
〃	(渡邊)	8 1 2 6
〃	(古川)	8 1 2 7

研究評価第2係長	(平野)	8 1 3 2
研究評価第2係	(山出)	8 1 3 4
研究評価第2係	(本橋)	8 1 3 5
〃	(熊木、小玉亨)	8 1 3 6
研究評価第3係長	(西村)	8 1 3 3
研究評価第3係主任	(砂田)	8 1 4 0
研究評価第3係	(佐々木)	8 1 4 1
〃	(大平、末次)	8 1 4 2
F A X		8 1 4 9

大塚地区(03-3942-ダイヤルイン)

〒112-0012

文京区大塚3-29-1 (筑波大学大塚地区E館内)

学位審査研究部 (3F・4F)

小野学位審査研究部長	(E358)	9 6 7 1
神谷教授	(E356)	9 6 7 3
六車教授	(E354A)	9 6 5 0
八木教授	(E353B)	9 6 3 5
濱中助教授	(E351A)	9 6 1 1
宮崎助教授	(E454B)	9 9 7 0
森 助教授	(E351B)	9 6 1 2
吉川助教授	(E353A)	9 6 2 8
学位審査研究部 FAX		9 6 7 6

評価研究部 (4F)

喜多教授	(E459)	9 9 7 2
井田助教授	(E461)	9 8 4 9
芳鐘助手	(E454)	9 4 8 8

管理部 (4F)

情報課 (E463)

課 長	(岡松)	9 9 4 2
課長補佐	(上田)	9 9 4 6
情報企画係長	(穴戸)	9 9 6 1
情報企画係	(福島)	9 9 6 1
評価情報係長	(黒川)	2 3 5 6
評価情報係	(諸星、小川)	2 3 5 6
(評価情報係一ツ橋地区11F(1106) ダイヤルイン03-4212-8084)		

大学学習情報係長	(尾曾)	9 9 5 0
大学学習情報係主任	(松橋)	9 9 5 0
大学学習情報係	(黒嶋)	9 9 5 0
ネットワーク管理係長	(先立)	9 9 5 7
ネットワーク管理係	(土井)	9 9 5 7
F A X		9 9 6 2

学位審査課 (E455)

課 長	(木林)	9 6 8 3
課長補佐	(平尾)	9 6 8 6
認定審査係長	(延原)	9 6 8 7
認定審査係主任	(置山)	9 6 8 7
認定審査係	(三國、矢崎)	9 6 8 7
学修審査第1係長	(近藤)	9 7 5 1
学修審査第1係	(富田、田中篤)	9 6 9 8
〃	(鞍元、野口)	9 6 9 8
〃	<問い合わせ専用>	2 3 5 5
学修審査第2係長	(茅間)	9 8 1 6
学修審査第2係	(小枝)	9 8 1 6
認定課程係長	(石川)	9 8 9 8
認定課程係	(小向)	9 8 9 8
F A X		9 9 3 9

編集後記

- ◇ 「大学評価・学位授与機構ニュース」第27号をお届けします。
- ◇ 本年3月に初めての評価結果として、平成12年度に着手した大学評価の評価結果を、「評価報告書」として取りまとめ、公表しました。
巻頭言として、井村評議員会会長及び阿部大学評価委員会委員長から御寄稿をいただきました。
- ◇ 平成13年度10月期の学位授与者数は、短大・高専卒業者、専門学校修了者等に対する学士が1,598人、各省庁大学校関係では、学士837人、博士19人となっております。
平成3年度から始まった学位授与事業は、11年目にして学位授与者の総数が20,000人を超えることとなりました。
- ◇ 本機構のホームページ上に本機構が行う学位授与に関するFAQ（よくある質問とその答え）を新設しました。
また、同ホームページ上に、昨年度作成した10周年記念誌「学位授与のあゆみ」を掲載しております。
- ◇ 本機構は現在、3箇所の施設を借用し業務を行っていますが、現在東京都小平市に建設中である新施設の整備の概要について紹介しております。
- ◇ 「学位研究」第16号が発行されました。
- ◇ 本年1月に評価研究部に着任された袖山助教授から並びに3月に着任された井田助教授から就任の挨拶をいただいております。
また、本年3月31日付退任の齋藤安俊前学位審査研究部長から、4月1日付東北大学へ転任の前学位審査研究部橋本助教授から並びに北海道大学事務局長に転任の齊藤秀昭前副機構長から御挨拶をいただいております。
- ◇ 在外研究員としてUCLAに派遣されていた前学位審査研究部の橋本助教授から海外渡航余話をいただきました。

(Y. Y.)

編集 大学評価・学位授与機構広報委員会

連絡先 〒101-8438 東京都千代田区一ツ橋2-1-2
学術総合センター内
大学評価・学位授与機構管理部総務課
電話/Fax 03-4212-8208/8210
ホームページアドレス <http://www.niad.ac.jp/>

印刷 (有) 創文社
〒141-0031 東京都品川区西五反田1-4-1
電話 03-3491-8321